

StorageTek Enterprise Library Software

ELS のインストール

リリース 7.2

E54216-02

2016 年 9 月

StorageTek Enterprise Library Software
ELS のインストール

E54216-02

Copyright © 2011, 2016, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクルまでご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

U.S. GOVERNMENT END USERS: Oracle programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, delivered to U.S. Government end users are "commercial computer software" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, use, duplication, disclosure, modification, and adaptation of the programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, shall be subject to license terms and license restrictions applicable to the programs. No other rights are granted to the U.S. Government.

このソフトウェアまたはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアまたはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション (人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む) への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアまたはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する場合、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性 (redundancy)、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアまたはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使ったことに起因して損害が発生しても、Oracle Corporation およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

Oracle および Java はオラクルおよびその関連会社の登録商標です。その他の社名、商品名等は各社の商標または登録商標である場合があります。

Intel、Intel Xeon は、Intel Corporation の商標または登録商標です。すべての SPARC の商標はライセンスをもとに使用し、SPARC International, Inc. の商標または登録商標です。AMD、Opteron、AMD ロゴ、AMD Opteron ロゴは、Advanced Micro Devices, Inc. の商標または登録商標です。UNIX は、The Open Group の登録商標です。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。適用されるお客様と Oracle Corporation との間の契約に別段の定めがある場合を除いて、Oracle Corporation およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。適用されるお客様と Oracle Corporation との間の契約に定めがある場合を除いて、Oracle Corporation およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。

目次

はじめに	15
対象読者	15
ドキュメントのアクセシビリティについて	15
関連ドキュメント	16
表記規則	16
テキストの表記規則	16
制御文の構文規則	16
1. インストールの準備	19
インストールパッケージ	19
ELS インストール Zip ファイルの内容	20
ELS インストールテープの内容	20
ELS インストール CD-ROM の内容	22
ソフトウェア要件	22
オペレーティングシステム	22
ELS ソフトウェア	22
追加ソフトウェア	22
TCP/IP 通信	23
SNA LU 6.2 通信	23
HSC サーバーシステム通信	23
独立系ソフトウェアベンダーの製品	23
ソフトウェアの互換性	24
SMC の互換性	24
HSC/VTCS の互換性	24
LCM の互換性	24
LibraryStation の互換性	25
MVS/CSC の互換性	25
ハードウェア要件	25

プロセッサ	25
StorageTek ライブラリストレージモジュール (LSM)	25
トランスポートおよび関連メディア	25
仮想ストレージの要件	26
SMC 仮想ストレージの要件	26
HSC、VTCS、および LibraryStation 仮想ストレージの要件	26
MVS/CSC 仮想ストレージの要件	27
インストール準備作業の考慮事項	27
2. ELS および追加ソフトウェアのインストール	29
インストールに関するチェックリスト	29
SMP/E JCL ライブラリのアンロード	31
ELS インストール Zip ファイルからの SMP/E JCL ライブラリのアン ロード	33
ELS インストールテープからの SMP/E JCL ライブラリのアンロー ド	33
ELS インストール CD-ROM からの SMP/E JCL ライブラリのアンロー ド	34
CHGIT メンバーの編集	35
CHGIT メンバーのテスト	35
SMP/E 環境の準備	36
SMP/E の考慮事項	36
ELS グローバル SMP/E Consolidated Software Inventory (CSI) の定義お よび初期設定	37
ターゲットおよび配布ライブラリデータセットの割り振りと、必須の DDDEF エントリ	38
ターゲットおよび配布ライブラリデータセット	38
SYSLIB 連結の更新	41
ELS FMID の検証	42
ELS 機能の RECEIVE	42
ELS インストール ZIP ファイルからの ELS 機能の受信	43
ELS インストールテープからの ELS 機能の受信	44

ELS インストール CD からの ELS 機能の受信	45
ELS 機能の APPLY	46
ELS 機能の ACCEPT	47
3. ELS 保守のインストール	49
保守インストールデータセット	50
ELS 累積サービスの内容	50
ELS 保守の SMP/E JCL サンプルのアンロード	50
累積保守のアンロード	50
SMP/E RECEIVE 保守	52
SMP/E APPLY 保守	52
SMP/E ACCEPT 保守	52
HELD ELS PTF の分離	53
適用可能な ELS HOLDSYSTEM SYSMODS の APPLY	54
4. ELS インストール後のタスクの実施	55
ELS ロードライブラリの許可	55
IEAAPFzz メンバーへの ELS ロードライブラリの追加	55
PROGzz メンバーへの ELS ロードライブラリの追加	56
ELS ロードライブラリの許可	56
SMC インストール後のタスクの実施	57
SMC の MVS サブシステムとしての定義	57
テープ管理システムとの相互作用およびサブシステム名テーブル	58
Unicenter CA-MIA との相互作用およびサブシステム名テーブル	59
SMC、TMS、Unicenter CA-MIA 間の相互作用およびサブシステム名テーブル	59
MSTR およびサブシステム名テーブルのもとでの SMC の実行	60
サブシステム名テーブルの SMC に関する修正についての注意	60
MVS LINKLIST ライブラリへの SMCBPRESI モジュールのコピーまたは移動	61

MVS プログラム属性テーブルへの SMC の追加	61
SMC データスペースに関する考慮事項	62
HSC インストール後のタスクの実施	62
HSC の MVS サブシステムとしての定義	62
HSC ユーザー出口ライブラリの許可	63
IEAAPFzz メンバーへの HSC ユーザー出口ロードライブラリの追加	64
PROGzz メンバーへの HSC ユーザー出口ロードライブラリの追加	64
HSC ユーザー出口ロードライブラリの許可	65
MVS LINKLIST ライブラリへの SLSBPRESI モジュールのコピーまたは移動	65
MVS プログラム属性テーブルへの HSC の追加	65
HSC および VTCS の SMF パラメータの追加	66
TMS インタフェース (SLUDR*) ルーチンの再アセンブル	67
JES3 インストール後のタスクの実施	67
SMC のための SMCERSLV モジュールのアセンブルおよびリンク編集	67
SMC JES3 ロードライブラリの許可	68
SMC および JES3 のためのロードモジュールのアクセス	68
IEAAPFzz メンバーへの SMC JES3 ロードライブラリの追加	69
PROGzz メンバーへの SMC JES3 ロードライブラリの追加	69
SMC JES3 ロードライブラリの許可	69
SMC Type 1 の修正の作成およびインストール	70
SMC Type 1 の修正の作成	70
IATHICM (オプション)	70
IATHIP1 (必須)	70
IATMDAL (必須)	71
IATMDFE (オプション)	71
SMC Type 1 の修正のインストール	71
SMC の JES3 IATUX09 ユーザー出口の修正の作成およびインストール	73

SMC の JES3 IATUX09 ユーザー出口の修正の作成	73
SMC の JES3 IATUX09 ユーザー出口の修正のインストール	74
SMC の JES3 IATUX71 ユーザー出口の修正の作成およびインストール	75
SMC の JES3 IATUX71 ユーザー出口の修正の作成	75
SMC の JES3 IATUX71 ユーザー出口の修正のインストール	76
5. ELS 追加ソフトウェアのインストール後のタスクの実施	79
LCM インストール後のタスク	79
LCM ロードライブラリの許可	79
IEAAPFzz メンバーへの LCM ロードライブラリの追加	80
PROGzz メンバーへの LCM ロードライブラリの追加	80
LCM ロードライブラリの許可	80
EDI からの HSC CDS の除外	81
LCM インストールの検証	81
LCM Agent のインストールおよび構成 (オプション)	82
LCM Agent スターテッドタスクのパラメータ	86
LCM Explorer のインストール (オプション)	87
Explorer 構成ファイルライブラリの割り振り	87
Explorer によって送信されたジョブの JCL 手順のインストール	88
MVS/CSC インストール後のタスク	88
MVS/CSC の MVS サブシステムとしての定義	88
同じ MVS ホストシステムで実行する複数の MVS/CSC サブシステムの定義	89
MVS/CSC ロードライブラリの許可	91
IEAAPFzz メンバーへの MVS/CSC ロードライブラリの追加	91
PROGzz メンバーへの MVS/CSC ロードライブラリの追加	92
MVS/CSC ロードライブラリの許可	92
MVS/CSC ユーザー出口ライブラリの許可	93
IEAAPFzz メンバーへの MVS/CSC ユーザー出口ロードライブラリの追加	93

PROGzz メンバーへの MVS/CSC ユーザー出口ロードライブラリ の追加	94
MVS/CSC ユーザー出口ロードライブラリの許可	94
MVS LINKLIST ライブラリへの SCSBPRI モジュールのコピーまた は移動	94
MVS プログラム属性テーブルへの MVS/CSC の追加	95
MVS/CSC のイベントログおよびトレースのデータセットの割り振 り	95
LibraryStation インストール後のタスク	96
LibraryStation ロードライブラリの許可	96
IEAAPFzz メンバーへの LibraryStation ロードライブラリの追 加	96
PROGzz メンバーへの LibraryStation ロードライブラリの追加	97
LibraryStation ロードライブラリの許可	98
永続データファイルの定義 (オプション)	98
PDF のデータセット名	100
ボリュームのロケーション	100
レコードキーワードの値	100
A. ELS サンプル、モジュール、およびマクロ	103
ELS のサンプル、ソースコードモジュール、およびマクロ	103
ELS のサンプル	103
ELS のソースコードモジュール	104
ELS のマクロ	105
LCM のサンプル	110
MVS/CSC のサンプルおよびマクロ	113
MVS/CSC のサンプル	114
MVS/CSC のマクロ	115
LibraryStation のサンプルおよびソースコードモジュール	115
LibraryStation のサンプル	116
LibraryStation のソースコードモジュール	116
用語集	117

索引	123
----------	-----

表の一覧

1.1. ELS 7.2 インストール Zip ファイルの内容	20
1.2. ELS 7.2 インストールテープの内容	21
1.3. ELS 7.2 インストール CD-ROM の内容	22
2.1. ELS ターゲットライブラリデータセット	39
2.2. ELS 配布ライブラリデータセット	40
3.1. ELS 7.2 累積サービスの内容 (コードディレクトリ)	50
5.1. SAMPLIB メンバーのパラメータファイル	82
5.2. MVS/CSC のトレースおよびイベントログのデータセット	95
5.3. PDF のデータセット名	100
A.1. ELS のサンプル	103
A.2. ELS のソースコードモジュール	104
A.3. ELS のマクロ	106
A.4. LCM のサンプル	110
A.5. MVS/CSC のサンプル	114
A.6. MVS/CSC のマクロ	115
A.7. LibraryStation のサンプル	116
A.8. LibraryStation のソースコードモジュール	116

例の一覧

2.1. ELS インストールテープから SMP/E JCL ライブラリをアンロードするための JCL	33
3.1. SMP/E APPLY HOLDSYSTEM SYSMODS に対する JCL	54
4.1. SMCJTYP1 JCL	72
4.2. SMCJUX09 JCL	74
4.3. SMCJUX71 JCL	76
5.1. LibraryStation PDF データセットを定義する JCL	99

はじめに

このドキュメントでは、Oracle の StorageTek Enterprise Library Software (ELS) をインストールする方法について説明します。

このソフトウェアソリューションは次のソフトウェアで構成されます。

基本ソフトウェア:

- Oracle の StorageTek ストレージ管理コンポーネント (SMC) 2016 年 9 月
(以前 StorageTek HTTP Server として知られていた製品を含みます)
- Oracle の StorageTek ホストソフトウェアコンポーネント (HSC)
- Oracle の StorageTek 仮想テープ制御ソフトウェア (VTCS)
- Oracle の StorageTek 並行障害回復テスト (CDRT)

その他のサポートソフトウェア:

- Oracle の StorageTek ライブラリコンテンツマネージャー (LCM)。LCM には、以前 Offsite Vault Feature として知られていた製品の拡張版が含まれます。
- Oracle の StorageTek MVS 環境用クライアントシステムコンポーネント (MVS/CSC)
- Oracle の StorageTek LibraryStation

対象読者

このドキュメントは、ストレージ環境のインストールおよび構成を行うストレージ管理責任者、システムプログラマ、およびオペレータを対象としています。

ドキュメントのアクセシビリティについて

オラクルのアクセシビリティについての詳細情報は、Oracle Accessibility Program の Web サイト (<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=docacc>) を参照してください。

Oracle Support へのアクセス

サポートをご契約のお客様には、My Oracle Support を通して電子支援サービスを提供しています。詳細情報は (<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?>

[ctx=acc&id=info](http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=info)) か、聴覚に障害のあるお客様は (<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=trs>) を参照してください。

関連ドキュメント

StorageTek ライブラリ、テープドライブ、および関連するソフトウェアやハードウェアに関するドキュメントにアクセスするには、次の URL にある Oracle Technical Network (OTN) にアクセスしてください。

<http://docs.oracle.com>

表記規則

このドキュメントでは次の表記規則を使用します。

テキストの表記規則

テキストの表記規則は次のとおりです。

表記規則	意味
太字	太字は、アクションに関連付けられたグラフィカルユーザーインターフェースの要素、またはテキストや用語集で定義される用語を示します。
斜体	斜体は、マニュアルタイトル、強調、または特定の値を指定するプレースホルダ変数を示します。
モノスペース	モノスペースは、段落内のコマンド、URL、例のコード、画面に表示されるテキスト、またはユーザーが入力するテキストを示します。

制御文の構文規則

通常、制御文には、次の構文表記法が使用されます。

- 有効な制御文情報域は、列 1 - 列 72 のみです。列 73 - 80 は無視されます。
- パラメータの区切りには、1 つまたは複数の空白スペースまたはコンマを使用できます。
- パラメータと値の関連は、イコール (=) 記号で示すか、値を括弧で囲み、パラメータの直後に連結させて示します。
- 実際の制御文では、大文字/小文字は区別されません。
- 次行に続く文の場合は、プラス (+) 記号を前行の末尾に加えます。文が続かない場合、制御文は終了します。

- ジョブストリームのコメントを囲むには、`/* および */` を使用します。HSC PARMLIB メンバーと定義データセットは次の形式でコメントを指定する必要があります。
 - 任意の PARMLIB メンバーの最初の制御文としてのコメントは必要ありません。
 - コメントは複数行に渡って追加できますが、入れ子にはできません。
- 制御文の最大長は 1024 文字です。

第1章 インストールの準備

この章では、ELS インストールパッケージおよびインストール準備要件について説明します。ここでは、次のトピックについて説明します。

- 「インストールパッケージ」
- 「ソフトウェア要件」
- 「ハードウェア要件」
- 「仮想ストレージの要件」
- 「インストール準備作業の考慮事項」

インストールパッケージ

ELS インストールパッケージには、次のものが含まれています。

- ELS ソフトウェア機能 (FMID) およびそれらをインストールするために使用されるサンプルを含む ELS インストール ZIP ファイルまたはメディア (テープまたは CD-ROM)。ソフトウェア機能は、次のソフトウェアを対象としています。

基本ソフトウェア:

- StorageTek ストレージ管理コンポーネント (SMC)

(以前 StorageTek HTTP Server として知られていた製品を含みます)

- StorageTek ホストソフトウェアコンポーネント (HSC)
- StorageTek 仮想テープ制御ソフトウェア (VTCS)
- StorageTek 並行障害回復テスト (CDRT)

追加ソフトウェア:

- StorageTek ライブラリコンテンツマネージャー (LCM、以前の名称は ExLM)

(以前は「Offsite Vault Feature」と呼ばれていた製品も含む)

- StorageTek MVS 環境用クライアントシステムコンポーネント (MVS/CSC)
- StorageTek LibraryStation
- *ELS Read Me First* - リリース特有の重要な製品情報を含みます。

インストールの一環として、ELS 7.2 用および ELS 7.2 と共存している Oracle StorageTek ソフトウェアのすべてのリリース用の最新の累積保守 (PTF および HOLDDATA) を入手してインストールする必要があります。

My Oracle Support (MOS) サイトから累積保守をダウンロードします。

<http://www.myoraclesupport.com>

HOLDDATA および PTF 更新についてこのサイトに頻繁にアクセスし、定期的に累積保守更新をインストールします。PTF は、毎月 MOS にリリースされます。

ELS 累積保守のインストールについては、3章「[ELS 保守のインストール](#)」を参照してください。

ELS インストール Zip ファイルの内容

次の表では、ELS インストール ZIP ファイルに含まれるフォルダおよびファイルについて説明します。

表1.1 ELS 7.2 インストール Zip ファイルの内容

フォルダまたはファイル	説明
Documents フォルダ	ELS インストールノートが含まれます
SEA72.gimzip	ELS 製品を含む圧縮ファイル (JCL サンプルを除く)
SEA72.pax	ELS 製品を含む圧縮ファイル (JCL サンプルを含む)
Samples.unix フォルダ	UNIX バージョンの ELS サンプルが含まれます
Samples.win フォルダ	Windows バージョンの ELS サンプルが含まれます
Start Here.html	ドキュメントフォルダへの XML 開始点

ELS インストールテープの内容

ELS は、ボリュームシリアル番号が SEA720 の標準ラベル 9840C または 9940B テープで配布されます。

次の表では、ELS インストールテープに含まれるファイルについて説明します。

表1.2 ELS 7.2 インストールテープの内容

ファイル番号	データセット名	説明
1	SMPMCS	SMP/E 制御文
2	SSEA720.F1	ELS (HSC、SMC、VTCS、および CDRT) JCLIN およびインストールサンプル
3	SSEA720.F2	ELS のサンプル
4	SSEA720.F3	ELS のマクロ
5	SSEA720.F4	ELS のソースモジュール
6	SSEA720.F5	ELS オブジェクトモジュール
7	SCS7200.F1	MVS/CSC JCLIN
8	SCS7200.F2	MVS/CSC のマクロおよびサンプル
9	SCS7200.F3	MVS/CSC ソースモジュール
10	SCS7200.F4	MVS/CSC オブジェクトモジュール
11	SMZ7200.F1	SMC JES3 JCLIN
12	SMZ7200.F2	SMC JES3 のサンプル
13	SMZ7200.F3	SMC JES3 のマクロ
14	SMZ7200.F4	SMC JES3 ソースモジュール
15	SMZ7200.F5	SMC JES3 オブジェクトモジュール
16	SOC7200.F1	LibraryStation JCLIN
17	SOC7200.F2	LibraryStation のマクロおよびサンプル
18	SOC7200.F3	LibraryStation オブジェクトモジュール
19	SSCR70C.F1	SAS/C 7.0 JCLIN
20	SSCR70C.F2	SAS/C 7.0 オブジェクトモジュール
21	SSCR70D.F1	SAS/C 7.0 JCLIN
22	SSCR70D.F2	SAS/C 7.0 オブジェクトモジュール
23	SLM7200.F1	LCM JCLIN
24	SLM7200.F2	LCM オブジェクトモジュール
25	SLM7200.F3	LCM のサンプル

ファイル番号	データセット名	説明
26	SLM7200.F4	LCM グラフィカルユーザーインタフェース

ELS インストール CD-ROM の内容

ELS は標準 CD-ROM で配布されます。

次の表では、ELS インストール CD-ROM に含まれるファイルについて説明します。

表1.3 ELS 7.2 インストール CD-ROM の内容

ファイル番号	データセット名	説明
1	Documents	ELS CD インストール上の注意
2	SEA72.gimzip	ELS 製品を含む圧縮ファイル (JCL サンプルを除く)
3	SEA72.pax	ELS 製品を含む圧縮ファイル (JCL サンプルを含む)
4	Samples.unix	UNIX バージョンの ELS サンプル
5	Samples.win	Windows バージョンの ELS サンプル (CR/LF を含む)
6	Start Here.html	ドキュメントフォルダへの XML 開始点

ソフトウェア要件

ELS ソフトウェア要件は次のとおりです。

オペレーティングシステム

IBM でサポートされる任意のバージョンの z/OS (JES2 および JES3 環境)

ELS ソフトウェア

ELS リリース 7.2

追加ソフトウェア

次のいずれかです。

- StorageTek LCM 7.2
- StorageTek LibraryStation 7.2
- StorageTek MVS/CSC 7.2

TCP/IP 通信

次のうちのいずれか 1 つ。

- IBM TCP/IP リリース 3.1 以降
- CA Unicenter TCPaccess 通信サーバーリリース 5.0 以降
- CA Unicenter TCPaccess X.25 サーバーリリース 1 以降

SNA LU 6.2 通信

次のうちのいずれか 1 つ。

- IBM ACF/VTAM リリース 3.4.2 以降
- IBM APPC/MVS 通信サービス

SNA LU 6.2 は次の種類の通信にのみ適用されます。

- HSC ホスト間
- IBM UNIX 上の MVS/CSC と ACSLS の間
- RMLS 400 クライアントから LibraryStation へ

HSC サーバーシステム通信

IBM ACF/VTAM リリース 3.4.2 以降

独立系ソフトウェアベンダーの製品

次のいずれかです。

- ASG-Zara
- CA-1
- CA-DYNAM/TLMS
- CA-1®/Copycat Computer Associates International
- CA-Dynam®/TLMS/Copycat Computer Associates International
- CONTROL-M/TAPE
- DFSMS
- DFSMSdfp
- DFSMSdss

- DFSMShsm
- DFSMSrmm
- DFSORT
- FATSCopy Innovation Data Processing
- FDR MIM Syncsort
- Sysplex
- Tape/Copy OpenTech Systems, Inc.
- TelTape Cartagena Software Limited

ソフトウェアの互換性

VSM の CDS レベルを H に変更する前に、すべてのホストで ELS バージョン 7.1 が実行されている必要があります。この要件は、バージョン 6.2、7.0、7.1、および 7.2 で互換性のある SMC クライアントの LPAR には適用されません。

次の製品互換性ガイドラインを考慮してください。

SMC の互換性

SMC 7.2 は、次と互換性があります。

- 同じホスト上の HSC/VTCS 7.2
- 異なるホスト上の HSC/VTCS 6.2、7.0、7.1、または 7.2
- MVS/CSC 7.2

HSC/VTCS の互換性

HSC/VTCS 7.2 は、次と互換性があります。

- 同じホスト上の SMC 7.2
- 異なるホスト上の SMC 6.2、7.0、7.1、または 7.2
- LibraryStation 7.2
- ExPR 6.1

VTCS 7.2 には、最小で CDS レベル F が必要です。

LCM の互換性

LCM 7.2 は、HSC/VTCS 7.2 のみと互換性があります。

LibraryStation の互換性

LibraryStation 7.2 は、HSC/VTCS 7.2 のみと互換性があります。

MVS/CSC の互換性

MVS/CSC 7.2 は、SMC 7.2 のみと互換性があります。

ハードウェア要件

注記:

- ACS にはライブラリトランスポートおよびメディアの混合を含めることができます。
 - SL8500 および SL3000 ライブラリの HSC サポートの詳細は、『HSC および VTCS の管理』を参照してください。
 - SL8500 および SL3000 の構成情報については、『HSC および VTCS の構成』を参照してください。
-

ELS ハードウェア要件は次のとおりです。

プロセッサ

MVS を実行する IBM または IBM と互換性のあるプロセッサ (IBM でサポートされる任意のバージョンの z/OS)

StorageTek ライブラリストレージモジュール (LSM)

- StorageTek SL3000 モジュラーライブラリシステム
- StorageTek SL8500 モジュラーライブラリシステム
- StorageTek PowderHorn™ 9310
- StorageTek TimberWolf 9740
- StorageTek WolfCreek 9360
- StorageTek 標準 4410

トランスポートおよび関連メディア

- StorageTek T10000A/B/C/D
- StorageTek T9940A/B
- StorageTek T9840A/B/C/D

- StorageTek TimberLine™ 9490EE
- StorageTek TimberLine™ 9490
- StorageTek 4490
- StorageTek 4480
- StorageTek SD3
- HP LTO 第 2-6 世代
- IBM LTO 第 2-6 世代

仮想ストレージの要件

注記:

- MVS/CSC および HSC の稼働中に、境界より上の ECSA の容量は動的に増減します。実際の容量はアクティビティーおよびライブラリの大きさにより異なりますが、10K 以上増加することはあまりありません。
 - ECSA の実際の容量は、ライブラリの大きさおよび MVS に定義されるトランスポートの数により若干異なります。
 - 修正サービステープのインストール、ソフトウェアの拡張、またはソフトウェアの新規リリースの際には、CSA の容量を増やす必要があります。
-

ELS 仮想ストレージ要件は次のとおりです。

SMC 仮想ストレージの要件

- JES2 の場合、ロードモジュールおよびデータ構造用に 16M 境界より上の約 2.8M バイトの ECSA。
- JES3 の場合、16M 境界より上の ECSA では 800K 追加。
- 16M 境界より下の CSA の要件は特にありません。

HSC、VTCS、および LibraryStation 仮想ストレージの要件

- ロードモジュールおよびデータ構造用に 16M 境界より上の約 215K の ECSA。
- 一部のロードモジュールおよびデータ構造用に 16M 境界より下の約 20K の CSA。
- HSC の稼働中に、境界より上の ECSA の容量は動的に増減します。実際の容量はアクティビティーおよびライブラリの大きさにより異なりますが、10K 以上増加することはあまりありません。

- 最小領域サイズ 6M バイト。ただし、マニフェストファイルを操作するユーティリティーやコマンドを実行する場合は、システムでサポートされる最大の領域サイズが必要。

注記:

- これらの要件は、MVS の HSC アドレス空間で実行される VTCS および LibraryStation にも適用されます。
 - 境界より下の約 400 バイトの CSA ストレージがサブプール 228 (FIXED) にあります。
-

MVS/CSC 仮想ストレージの要件

- ロードモジュールおよびデータ構造用に 16M 境界より上の約 200K の ECSA。
- 一部のロードモジュールおよびデータ構造用に 16M 境界より下の約 34K の CSA。

インストール準備作業の考慮事項

- SMC および HSC は必須の ELS コンポーネントで、インストールする必要があります。
- ELS 製品コンポーネントのインストールに先立ち、上記以外の必要な PTF については、StorageTek ソフトウェアサポートにお問い合わせください。
- ELS ソフトウェアの以前のリリースから移行する場合は、ELS 製品ドキュメントの適切な移行および共存のガイドラインについて理解しておく必要があります。
- ELS ソフトウェアは SMP/E を使用してインストールします。このガイドのすべてのインストール指示は、SMP/E に基づいています。
- ELS 製品のインストールおよび保守に際しては MVS Program Binder を使用してください。使用しない場合、link-editing エラーの原因になります。

第2章 ELS および追加ソフトウェアのインストール

この章では、ELS ソフトウェアのインストールに必要なタスクについて説明します。ここでは、次のトピックについて説明します。

- 「インストールに関するチェックリスト」
- 「SMP/E JCL ライブラリのアンロード」
- 「CHGIT メンバーの編集」
- 「CHGIT メンバーのテスト」
- 「SMP/E 環境の準備」
- 「ELS FMID の検証」
- 「ELS 機能の RECEIVE」
- 「ELS 機能の APPLY」
- 「ELS 機能の ACCEPT」

ELS のインストールに先立ち、ELS 要件が満たされていることを確認し、[インストールの準備](#)に記載されているインストール準備作業の考慮事項を確認してください。

インストールに関するチェックリスト

次の手順を実行して、すべての ELS インストールタスクが完了していることを検証します。

注記:

ELS のインストールに先立ち、ELS 要件が満たされていることを確認し、[インストールの準備](#)に記載されているインストール準備作業の考慮事項を確認してください。

1. ZIP ファイル、テープ、または CD-ROM から SMP/E JCL ライブラリをアンロードします。

「[SMP/E JCL ライブラリのアンロード](#)」を参照してください。

2. オプションで、要件に応じて *CHGIT* メンバーを編集します。

サンプルメンバー *CHGIT* を使用します。

[CHGIT メンバーの編集](#)を参照してください。

3. *CHGIT* メンバーをテストして編集を検証します。

サンプルメンバー *I20TST* を使用します。

[CHGIT メンバーのテスト](#)を参照してください。

4. SMP/E CSI を定義および初期設定します。

サンプルメンバー *I30CSI* を使用します。

「[ELS グローバル SMP/E Consolidated Software Inventory \(CSI\) の定義および初期設定](#)」を参照してください。

5. ELS および JES3 ターゲット、配布ライブラリデータセット、および必要な DDDEF エントリを割り振ります。

サンプルメンバー *I40ZON* を使用します。

[ターゲットおよび配布ライブラリデータセットの割り振り](#)と、必須の DDDEF エントリを参照してください。

6. SYSLIB 連結を更新します。

サンプルメンバー *I50LIB* を使用します。

「[SYSLIB 連結の更新](#)」を参照してください。

7. ELS FMID を検証します。

「[ELS FMID の検証](#)」を参照してください。

8. 必要な基本機能と通信機能、およびオプションの SMC JES3 機能に対して SMP/E RECEIVE を実行します。

- テープからインストールする場合は、サンプルメンバー *I60RCV* を使用します。
- CD-ROM からインストールする場合は、サンプルメンバー *I60RNET* または *I60RNTS* を使用します。

「[ELS 機能の RECEIVE](#)」を参照してください。

9. 必要な基本機能と通信機能、およびオプションの SMC JES3 機能に対して SMP/E APPLY を実行します。

サンプルメンバー I70APP を使用します。

「[ELS 機能の APPLY](#)」を参照してください。

10. 必要な基本機能と通信機能、およびオプションの SMC JES3 機能に対して SMP/E ACCEPT を実行します。

サンプルメンバー I80ACC を使用します。

「[ELS 機能の ACCEPT](#)」を参照してください。

11. ELS 基本機能に対して SMP/E RECEIVE 保守を実行します。

サンプルメンバー MAINTRCF を使用します。

「[SMP/E RECEIVE 保守](#)」を参照してください。

12. ELS 基本機能に対して SMP/E APPLY 保守を実行します。

サンプルメンバー MAINTAPF を使用します。

「[SMP/E APPLY 保守](#)」を参照してください。

13. オプションで、基本機能に対して SMP/E ACCEPT 保守を実行します。

サンプルメンバー MAINTACF を使用します。

「[SMP/E ACCEPT 保守](#)」を参照してください。

14. [4章「ELS インストール後のタスクの実施」](#)で説明している ELS インストール後のタスクに進みます
15. [5章「ELS 追加ソフトウェアのインストール後のタスクの実施」](#)で説明している ELS 追加ソフトウェアのインストール後のタスクに進みます

SMP/E JCL ライブラリのアンロード

ELS のインストールを開始するには、ELS インストール ZIP ファイル、テープ、または CD-ROM から SMP/E JCL ライブラリをアンロードします。このライブラリには、インストール環境を準備し、ELS 機能および関連保守をインストールする際に使用する JCL サンプルメンバーが含まれています。

次のサンプルメンバーがあります。

- *CHGIT*

ELS インストールサンプルメンバーのカスタマイズに使用するオプションの
REXX exec

- *I10JCL*

ELS インストールテープから SMP/E JCL ライブラリをアンロードします。

- *I20TST*

CHGIT 設定をテストおよび検証します。

- *I30CSI*

ELS グローバル SMP/E CSI を定義および初期設定します。

- *I40ZON*

ELS (および追加ソフトウェア) のターゲットおよび配布データセットを割り振り、SMP/E CSI に適切な DDDEF エントリを定義します。

ELS (オプションで JES3) ターゲットおよび配布データセットを割り振り、SMP/E CSI に適切な DDDEF エントリを定義します。

- *I50LIB*

必要な DDDEF エントリを追加し、SYSLIB 連結を変更します。

- *I60RCV*

ELS インストールテープからの *SMP/E RECEIVE* ELS および追加機能。

- *I60RNET* (CD-ROM のみ)

I60RNTS (下記) のネットワークバージョン。

- *I60RNTS* (CD-ROM のみ)

ELS インストール CD-ROM からの *SMP/E RECEIVE* ELS および追加機能。

- *I70APP*

SMP/E APPLY ELS および追加機能。

- *I80ACC*

SMP/E ACCEPT ELS および追加機能。

- *MAINTACF*

特定の *FMID* 向けのマスモードでの *SMP/E ACCEPT* 保守。

- *MAINTAPF*

特定の *FMID* 向けのマスモードでの *SMP/E APPLY* 保守。

- *MAINTRCF*

特定の *FMID* 向けの *SMP/E RECEIVE* 保守。

ELS インストール Zip ファイルからの SMP/E JCL ライブラリのアンロード

ELS インストール ZIP ファイルから SMP/E JCL ライブラリをアンロードするには:

1. 使用している PC、MVS ホスト、および UNIX Systems Services (USS) 間にネットワーク接続を確立します。
2. ELS インストール ZIP ファイルの内容を抽出します。
3. ファイル *Start Here.html* を開きます。
4. 画面の指示に従い、SMP/E JCL ライブラリをアンロードします。

注記:

画面コマンド例の多くは、ブラウザのウィンドウから端末のウィンドウへカット&ペーストできます。

ELS インストールテープからの SMP/E JCL ライブラリのアンロード

ELS インストールテープのファイル 2 から SMP/E JCL ライブラリをアンロードするには、次の例で提供されているサンプル JCL を使用し、次のステップを実行します。

例2.1 ELS インストールテープから SMP/E JCL ライブラリをアンロードするための JCL

```
//jobname JOB your jobcard parameters
//UNLOAD EXEC PGM=IKJEFT01,REGION=16385K
//SYSPRINT DD SYSOUT=(,)
//SYSTSPRT DD SYSOUT=(,)
```

```

/**
// SET TUNIT=3480
/**
//SYSUT1 DD DISP=SHR,DSN=SSEA720.F1,VOL=SER=SEA720,
// LABEL=(2,SL,EXPDT=980000),UNIT=(&TUNIT,,DEFER)
/**
//SYSTSIN DD *
        allocate dd(SYSUT2) mod catalog dir(10) dsntype(library) -
                avblock(10000) space(100,100) -
                dsn(your.ELS72.samples.JCL)

        call *(IEBCOPY)

//SYSIN DD *
L1 COPY OUTDD=SYSUT2,INDD=((SYSUT1,R))
L2 EXCLUDE MEMBER=SSEA720
//

```

このドキュメントの JCL の例および ELS インストールテープに収められているサンプル JCL では、フィールドが小文字で表記されている場合があります。使用しているインストール要件に応じて、これらのフィールドを更新してください。

1. JOB カードを変更し、*jobname* および *your jobcard parameters* の値を指定します。
2. 必要に応じて、テープユニット (*SET TUNIT=3480*) を変更します。
3. 必要に応じて、*dsn(your.ELS72.samples.JCL)* を変更します。引用符の付かない DSN には、接頭辞「TSO」が付けられます。
4. インストールテープをライブラリにコピーした場合は、*VOL=SER=SEA720* をライブラリのボリュームシリアル番号に変更します。
5. ジョブを送信します。各手順で完了コード「0」が表示された場合は、手順が正常に完了したことを示しています。

ELS インストール CD-ROM からの SMP/E JCL ライブラリのアンロード

ELS インストール CD-ROM から SMP/E JCL ライブラリをアンロードするには:

1. 使用している PC、MVS ホスト、および UNIX Systems Services (USS) 間にネットワーク接続を確立します。
2. 使用している PC の CD-ROM ドライブに ELS インストール CD-ROM をセットします。
3. CD-ROM ドライブのルートディレクトリにナビゲートし、ファイル *Start Here.html* を開きます。(一部のシステムでは、このファイルは自動的に開きます)。

4. 画面の指示に従い、SMP/E JCL ライブラリをアンロードします。

注記:

画面コマンド例の多くは、ブラウザのウィンドウから端末のウィンドウへカット&ペーストで
きます。

CHGIT メンバーの編集

SMP/E JCL ライブラリの *CHGIT* メンバーに含まれている一般的な ISPF 編集コマンドを使って、環境要件に合わせて ELS インストールサンプルメンバーをカスタマイズできます。

CHGIT を使用して、インストール設定を編集し、ELS 機能のインストールに使用するサンプルメンバーに適用できます。*CHGIT* はオプションの REXX exec として動作します。

CHGIT メンバーを編集するには:

1. サンプルメンバーの注釈にある指示に従って *CHGIT* メンバーを編集し、変更を保存します。
2. *CHGIT* を *SYSEXEC* 連結にコピーして、*CHGIT* をコマンドとして実行できるようにします。

または、次の TSO コマンドを発行して *CHGIT* を有効にすることもできます。

```
TSO allocate dd(SYSUEXEC) shr dsn(your.ELS72.SAMPLES.JCL)
```

```
TSO altlib activate user(exec)
```

SYSEXEC の既存の割り当てをオーバーライドする場合は、*REUSE* キーワードを指定します。

注記:

CHGIT の使用が推奨されますが、これはオプションです。エディタを使って各サンプルを個別に変更することもできます。この場合は、*CHGIT* がガイドとして役立ちます。

CHGIT メンバーのテスト

サンプルメンバー I20TST (SMP/E JCL ライブラリに含まれています) を使用して、*CHGIT* の編集をテストおよび検証します。

1. メンバー *I20TST* の編集モードに入り、*CHGIT* コマンドを実行します。
2. *I20TST* ジョブを送信します。

ジョブが正常に完了すれば、残りの ELS インストールジョブに *CHGIT* メンバーを適用できます。

エラーが検出された場合は、*CHGIT* メンバーを編集してエラーを修正し、そのジョブを再度送信します。

SMP/E 環境の準備

このセクションでは、ELS 基本機能および SMC JES3 サポート機能のインストールのための SMP/E 環境の設定方法について説明します。サービスをインストールする場合は、[3章「ELS 保守のインストール」](#)を参照してください。

ELS 製品は、SMP/E を使用してインストールされます。SMP/E インストールプロセスには、正しい SMP/E ターゲットおよび配布ゾーンに機能をインストールするための *RECEIVE*、*APPLY*、および *ACCEPT* ジョブが含まれます。

SMP/E の考慮事項

SMP/E に関する考慮事項は次のとおりです。

- ELS は SMP/E を使用してインストールする必要があります。このガイドのすべてのインストール指示は、SMP/E に基づいています。
- ELS を CD からインストールする場合、ELS を UNIX Systems Services (USS) プラットフォームからインストールするには、SMP/E バージョン 3 リリース 1 以降が必要です。さらに、USS への読み取りおよび書き込みのアクセス権を持っている必要があります。
- すべての ELS 7.2 製品コンポーネントを新しいターゲットおよび配布 SMP/E CSI にインストールします。
- 同じグローバル SMP/E CSI にほかのベンダーの製品を ELS としてインストールしないでください。
- すべての ELS ベース製品に *SMP/E ACCEPT* を実行します。
- TMS (テープ管理システム) インタフェースルーチン用のロードモジュール (*SLUDRCA1*、*SLUDRRMM*、*SLUDRSMC*、*SLUDRTL*M、および *SLUDRZAR*) は、ELS のインストール中に生成される *SEALINK* ライブラリに含まれています。これらのモジュールは HSC、SMC、および MVS/CSC で共有されます。

さらに、次の警告を考慮してください。

- 旧リリースの ELS 製品コンポーネントを含む既存のグローバル SMP/E CSI に ELS 7.2 製品コンポーネントをインストールすると、SMP/E CSI から旧リリースのすべての SYSMODS (SAS/C に関連するものを除く) が削除されます。

ELS 7.2 製品コンポーネントのインストールの前に、既存のグローバル SMP/E CSI をバックアップすることをお勧めしています。

- 以前のリリースの LibraryStation または MVS/CSC がインストールされている既存のグローバル SMP/E CSI 内に LibraryStation 7.2 または MVS/CSC 7.2 をインストールする場合は、SAS/C 機能 (FMID *SSCR70C* および *SSCR70D*) を再インストールする必要はありません。
- 残したい SAS/C 機能を持つほかの StorageTek 製品が含まれているグローバル SMP/E CSI には、LibraryStation 7.2 または MVS/CSC 7.2 およびサポートされる SAS/C 機能をインストールしないでください。インストールすると、予測できない結果が生じる場合があります。

ELS グローバル SMP/E Consolidated Software Inventory (CSI) の定義および初期設定

サンプルメンバー *I30CSI* (SMP/E JCL ライブラリ内) を使用して、ELS のグローバル CSI (Consolidated Software Inventory) を定義し、初期設定します。

このジョブによって次のアクションが実行されます。

- 必要な SMP/E データセットを定義します。
- Consolidated Software Inventory (CSI) データセットを定義します。これにはこのリリースのための SMP/E グローバル、ターゲット、および配布ゾーンが含まれます。
- SMP/E CSI を初期設定します。
- SMP/E CSI に対してゾーン、オプション、ユーティリティー、および DDDEF エントリを追加します。

I30CSI ジョブを実行するには:

1. メンバー *I30CSI* の編集モードに入り、*CHGIT* コマンドを実行して *CHGIT* の編集を適用します。
2. *I30CSI* ジョブを送信します。

注記:

CHGIT の使用が推奨されますが、これはオプションです。*CHGIT* を使用しないことを選択する場合は、*I30CSI* サンプルメンバーのプロログにある指示に従って、必要に応じて編集し、ジョブを送信します。

ターゲットおよび配布ライブラリデータセットの割り振りと、必須の DDDEF エントリ

サンプルメンバー *I40ZON* (SMP/E JCL ライブラリに含まれる) を使用して、ターゲットおよび配布データセットを割り振り、適切な DDDEF エントリを SMP/E CSI 内に定義します。表2.1「ELS ターゲットライブラリデータセット」および表2.2「ELS 配布ライブラリデータセット」に、ELS および追加ソフトウェア用のターゲットおよび配布データセットのリストを示します。

I40ZON ジョブを実行するには:

1. メンバー *I40ZON* の編集モードに入り、*CHGIT* コマンドを実行して *CHGIT* の編集を適用します。
2. *I40ZON* ジョブを送信します。

次の点を考慮してください。

- *CHGIT* の使用が推奨されますが、これはオプションです。*CHGIT* を使用しないことを選択する場合は、*I40ZON* サンプルメンバーのプロログにある指示に従って、必要に応じて編集し、ジョブを送信します。
- 旧リリースがインストールされている既存のグローバル SMP/E CSI に ELS 7.2 製品コンポーネントをインストールする場合は、次に従ってください。
 - *SMPCSI* 文が既存のグローバル CSI を指していなければなりません。
 - *SMPLOG* および *SMPLOGA* 文がグローバルログを指していなければなりません。
 - *SMPPTS* 文がグローバル *SMPPTS* を指していなければなりません。
- PDSE (Partitioned Data Set Extended) の代わりに PDS を使用する場合は、*SEAMAC* と *ASEAMAC* のディレクトリブロックを 50 に増やします。

ターゲットおよび配布ライブラリデータセット

次の表に、*I40ZON* ジョブによって割り振られるターゲットおよび配布ライブラリデータセットの一覧を示します。

注記:

- *hlq* は、データセットの高位修飾子です。インストール用に定義されている命名規則に基づいて、高位修飾子を選択します。
- 表の中のディレクトリブロックおよびブロックの欄に記載の数値は、製品に必要な最小値です。
- 各 DDDEF エントリに必要となる DDname は、データセット名の最後の修飾子と一致する必要があります。たとえば、データセット *hlq.SEALINK* の場合、対応する DDname は *SEALINK* です。
- 一時的な *RELFILE* データセット用に割り振る容量を指定する SMP/E *DSSPACE* パラメータは、少なくとも (300,150,270) に設定する必要があります。

次の表に、I40ZON ジョブによって割り振られるターゲットライブラリデータセットの一覧を示します。

表2.1 ELS ターゲットライブラリデータセット

データセット名	製品	DSORG	RECFM	LRECL	BLKSIZE	ブロック数 (プライマリ/セカンダリ)	ディレクト リブロック 数
<i>hlq</i> .SEALINK	ELS	PO	U	N/A	32760	500/50	99
<i>hlq</i> .SEAMAC	ELS	PO-E	FB	80	27920	20/10	5
<i>hlq</i> .SEASAMP	ELS	PO-E	FB	80	27920	20/10	5
<i>hlq</i> .SMZLINK	SMC JES3	PO	U	N/A	32760	20/10	5
<i>hlq</i> .LCMLINK	LCM	PO-E	U	N/A	32760	2504/250	5
<i>hlq</i> .LCMSAMP	LCM	PO-E	FB	80	27920	25/25	5
<i>hlq</i> .LCMGUI	LCM	PO	U	N/A	32760	198/500	5
<i>hlq</i> .SCSLINK	MVS/CSC	PO	U	N/A	32760	500/100	100
<i>hlq</i> .SCSMAC	MVS/CSC	PO-E	FB	80	27920	30/10	5
<i>hlq</i> .SCSSAMP	MVS/CSC	PO-E	FB	80	27920	30/10	5
<i>hlq</i> .SLCLINK	LibraryStation	PO	U	N/A	32760	500/100	50
<i>hlq</i> .SLCSAMP	LibraryStation	PO-E	FB	80	27920	30/10	5
<i>hlq</i> .CSLLINK	MVS/CSC LibraryStation	PO	U	N/A	32760	50/10	20

データセット名	製品	DSORG	RECFM	LRECL	BLKSIZE	ブロック数 (プライマリ/セカンダリ)	ディレクト リブロック 数
hlq.SACLINK	MVS/CSC LibraryStation	PO	U	N/A	32760	200/10	100

注記:

PDSE (Partitioned Data Set Extended) の代わりに PDS を使用している場合は、ASEAMAC のディレクトリブロックを 50 に増やします。

次の表に、**I40ZON** ジョブによって割り振られる配布ライブラリデータセットの一覧を示します。

表2.2 ELS 配布ライブラリデータセット

データセット名	製品	DSORG	RECFM	LRECL	BLKSIZE	ブロック数 (プライマリ/セカンダリ)	ディレクト リブロック 数
hlq.ASEALINK	ELS	PO	U	N/A	32760	500/50	999
hlq.ASEAMAC	ELS	PO-E	FB	80	27920	20/10	5
hlq.ASEASAMP	ELS	PO-E	FB	80	27920	20/10	5
hlq.ASMZLINK	SMC JES3	PO	U	N/A	32760	20/10	5
hlq.ALCMLINK	LCM	PO-E	U	N/A	32760	2504/250	5
hlq.ALCMSAMP	LCM	PO-E	FB	80	27920	25/25	5
hlq.ALCMGUI	LCM	PO	U	N/A	32760	198/500	5
hlq.ASCSLINK	MVS/CSC	PO	U	N/A	32760	500/100	100
hlq.ASCSMAC	MVS/CSC	PO-E	FB	80	27920	30/10	5
hlq.ASCSSAMP	MVS/CSC	PO-E	FB	80	27920	30/10	5
hlq.ASLCLINK	LibraryStation	PO	U	N/A	32760	500/100	50
hlq.ASLCSAMP	LibraryStation	PO-E	FB	80	27920	30/10	5
hlq.ACSLLINK	MVS/CSC LibraryStation	PO	U	N/A	32760	50/10	20

データセット名	製品	DSORG	RECFM	LRECL	BLKSIZE	ブロック数 (プライマリ/セカンダリ)	ディレクト リブロック 数
hlq.ASACLINK	MVS/CSC LibraryStation	PO	U	N/A	32760	200/10	100

注記:

PDSE (Partitioned Data Set Extended) の代わりに PDS を使用している場合は、ASEAMAC のディレクトリブロックを 50 に増やします。

SYSLIB 連結の更新

ELS では、異なるバージョンの MVS/ESA JES3、および複数のテープ管理システムがサポートされています。たとえば TLMS と CA-1 です。

サンプルメンバー *I50LIB* (SMP/E JCL ライブラリ内) を使用して必要な DDDEF エントリを SMP/E CSI に追加し、SYSLIB 連結を変更して適切なマクロライブラリを追加します。

I50LIB ジョブを実行するには:

1. メンバー *I50LIB* の編集モードに入り、*CHGIT* コマンドを実行して *CHGIT* の編集を適用します。
2. *I50LIB* ジョブを送信します。

このジョブで実行されるすべての手順でリターンコードは 4 以下となります。それ以外のリターンコードが返された場合は、StorageTek ソフトウェアサポートにお問い合わせください。

注記:

- *CHGIT* の使用が推奨されますが、これはオプションです。*CHGIT* を使用しないことを選択する場合は、*I50LIB* サンプルメンバーのプロローグにある指示に従って、必要に応じて編集し、ジョブを送信します。
- ELS 7.2 製品コンポーネントをその製品の以前リリースを含む既存のグローバル SMP/E CSI 内にインストールする場合は、*SMPCSI* 文が既存のグローバル CSI を指している必要があります。

ELS FMID の検証

ELS は標準の SMP/E フォーマットに収められており、次の SMP/E FMID によって識別される複数の SYStem MODification (SYSMOD) 機能として提供されます。

- **SSEA720**

この FMID には、HSC、SMC、VTCS および CDRT ロードモジュール、配布マクロ、およびサンプルが含まれます。

- **SMZ7200**

この FMID には、SMC JES3 サポートロードモジュール、配布マクロ、および JES3 リリース 5.2.1、JES3 OS/390 リリース 1.1 以降、または JES3 z/OS リリース 1.0 以降を実行する MVS システムのサンプルが含まれます。

- **SLM7200**

この FMID には、LCM 7.2 ロードモジュール、配布マクロ、およびサンプルが含まれます。

- **SOC7200**

この FMID には、LibraryStation ロードモジュールおよびサンプルが含まれます。

- **SCS7200**

この FMID には、MVS/CSC ロードモジュール、配布マクロ、およびサンプルが含まれます。

- **SSCR70C**

この FMID には、LibraryStation および MVS/CSC に必要な SAS/C 7.0 の選択されたコンポーネントが含まれます。

- **SSCR70D**

この FMID には、LibraryStation および MVS/CSC に必要な SAS/C 7.0 の選択されたコンポーネントが含まれます。

ELS 機能の RECEIVE

ターゲットおよび配布ゾーンへのインストールを予定する機能を *RECEIVE* するには、SMP/E RECEIVE コマンドの発行が必要です。ELS インストール ZIP ファイ

ル、ELS インストールテープ、または ELS インストール CD-ROM から ELS 機能の SMP/E RECEIVE を実行できます。

次の警告について考慮してください。

- 旧リリースの ELS 製品コンポーネントを含む既存のグローバル SMP/E CSI に ELS 7.2 製品コンポーネントをインストールすると、SMP/E CSI から旧リリースのすべての SYSMODS (SAS/C に関連するものを除く) が削除されます。
 - ELS 7.2 製品コンポーネントのインストールの前に、既存のグローバル SMP/E CSI をバックアップすることをお勧めしています。
 - SMPCSI 文が既存のグローバル CSI を指していなければなりません。
- 以前のリリースの LibraryStation または MVS/CSC を含む既存のグローバル SMP/E CSI 内に LibraryStation 7.2 または MVS/CSC 7.2 をインストールする場合は、SAS/C 機能 (FMID *SSCR70C* および *SSCR70D*) を再インストールする必要はありません。
- 残したい SAS/C 機能を持つほかの StorageTek 製品が含まれているグローバル SMP/E CSI には、LibraryStation 7.2 または MVS/CSC 7.2 およびサポートされる SAS/C 機能をインストールしないでください。インストールすると、予測できない結果が生じる場合があります。

ELS インストール ZIP ファイルからの ELS 機能の受信

I60RNET または *I60RNTS* サンプルメンバーを使用して、UNIX Systems Services (USS) からの ELS 機能の *SMP/E RECEIVE* を実行します。

- *I60RNET* は、ELS 機能の RECEIVE を実行します。
- *I60RNTS* は、*SMPNTS* (Network Temporary Store) ディレクトリからの ELS 機能の RECEIVE を実行します。

これらのメンバーは、IBM *SMP/E RECEIVE FROMNETWORK* および *RECEIVE FROMNTS* コマンドを使用します。これらのコマンドの詳細は、IBM SMP/E のドキュメントを参照してください。

I60RNET または *I60RNTS* ジョブを実行するには:

1. メンバー *I60RNET* または *I60RNTS* の編集モードに入り、*CHGIT* コマンドを実行して *CHGIT* の編集を適用します。

2. *I60RNET* または *I60RNTS* ジョブを送信します。

このジョブで実行されるすべての手順でリターンコードは 4 以下となります。それ以外のリターンコードが返された場合は、StorageTek ソフトウェアサポートにお問い合わせください。

注記:

- *CHGIT* の使用が推奨されますが、これはオプションです。*CHGIT* を使用しないことを選択する場合は、*I60RNET* または *I60RNTS* サンプルメンバーのプロログにある指示に従って、必要に応じて編集し、ジョブを送信します。
 - ELS 7.2 製品コンポーネントをその製品の以前のリリースを含む既存のグローバル SMP/E CSI 内にインストールする場合は、*SMPCSI* 文が既存のグローバル CSI を指している必要があります。
 - 以前のリリースの LibraryStation または MVS/CSC を含むグローバル SMP/E CSI 内に LibraryStation 7.2 または MVS/CSC 7.2 をインストールする場合は、SAS/C 機能 (FMID *SSCR70C* および *SSCR70D*) を再インストールする必要はありません。
-

ELS インストールテープからの ELS 機能の受信

SMP/E JCL ライブラリで提供されている *I60RCV* サンプルメンバーを使用して、インストールする機能の *SMP/E RECEIVE* を実行します。ELS SMP/E FMID のリストについては、「[ELS FMID の検証](#)」を参照してください。

I60RCV ジョブを実行するには:

1. メンバー *I60RCV* の編集モードに入り、*CHGIT* コマンドを実行して *CHGIT* の編集を適用します。
2. *I60RCV* ジョブを送信します。

このジョブで実行されるすべての手順でリターンコードは 4 以下となります。それ以外のリターンコードが返された場合は、StorageTek ソフトウェアサポートにお問い合わせください。

注記:

CHGIT の使用が推奨されますが、これはオプションです。*CHGIT* を使用しないことを選択する場合は、*I60RCV* サンプルメンバーのプロログにある指示に従って、必要に応じて編集し、ジョブを送信します。

警告:

CHGIT の使用が推奨されますが、これはオプションです。*CHGIT* を使用しないことを選択する場合は、*I60RCV* サンプルメンバーのプロログにある指示に従って、必要に応じて編集し、ジョブを送信します。

ELS インストール CD からの ELS 機能の受信

I60RNET または *I60RNTS* サンプルメンバーを使用して、UNIX Systems Services (USS) からの ELS 機能の *SMP/E RECEIVE* を実行します。

- *I60RNET* は、ネットワークサーバー上にマウントされた CD-ROM から ELS 機能の *RECEIVE* を実行します。
- *I60RNTS* は、CD-ROM からロードされた *SMPNTS* (Network Temporary Store) デイレクトリから ELS 機能の *RECEIVE* を実行します。

これらのメンバーは、IBM *SMP/E RECEIVE FROMNETWORK* および *RECEIVE FROMNTS* コマンドを使用します。これらのコマンドの詳細は、IBM *SMP/E* のドキュメントを参照してください。

I60RNET または *I60RNTS* ジョブを実行するには:

1. メンバー *I60RNET* または *I60RNTS* の編集モードに入り、*CHGIT* コマンドを実行して *CHGIT* の編集を適用します。
2. *I60RNET* または *I60RNTS* ジョブを送信します。

このジョブで実行されるすべての手順でリターンコードは 4 以下となります。それ以外のリターンコードが返された場合は、StorageTek ソフトウェアサポートにお問い合わせください。

注記:

CHGIT の使用が推奨されますが、これはオプションです。*CHGIT* を使用しないことを選択する場合は、*I60RNET* または *I60RNTS* サンプルメンバーのプロログにある指示に従って、必要に応じて編集し、ジョブを送信します。

次の警告について考慮してください。

- ELS 7.2 製品コンポーネントをその製品の以前のリリースを含む既存のグローバル *SMP/E CSI* 内にインストールする場合は、*SMPCSI* 文が既存のグローバル *CSI* を指している必要があります。

- 以前のリリースの LibraryStation または MVS/CSC を含むグローバル SMP/E CSI 内に LibraryStation 7.2 または MVS/CSC 7.2 をインストールする場合は、SAS/C 機能 (FMID *SSCR70C* および *SSCR70D*) を再インストールする必要はありません。

ELS 機能の APPLY

SMP/E JCL ライブラリ内の *I70APP* サンプルメンバーを使用して、適切なターゲットゾーンに ELS 機能をインストールします。

I70APP ジョブを実行するには:

1. メンバー *I70APP* の編集モードに入り、*CHGIT* コマンドを実行して *CHGIT* の編集を適用します。
2. *I70APP* ジョブを送信します。

このジョブで実行されるすべての手順でリターンコードは 4 以下となります。それ以外のリターンコードが返された場合は、StorageTek ソフトウェアサポートにお問い合わせください。

CHGIT の使用が推奨されますが、これはオプションです。*CHGIT* を使用しないことを選択する場合は、*I70APP* サンプルメンバーのプロログにある指示に従って、必要に応じて編集し、ジョブを送信します。

実際の *APPLY* プロセスの前に、必要に応じて *APPLY CHECK* オプションを必要な回数だけ使用して SMP/E 処理の問題を識別できます。基本機能を正常にインストールするには、あらかじめ検知された SMP/E に関する問題をすべて解決しておく必要があります。

次の警告について考慮してください。

- ELS 7.2 製品コンポーネントをその製品の以前のリリースを含む既存のグローバル SMP/E CSI 内にインストールする場合は、*SMPCSI* 文が既存のグローバル CSI を指している必要があります。
- 以前のリリースの LibraryStation または MVS/CSC を含むグローバル SMP/E CSI 内に LibraryStation 7.2 または MVS/CSC 7.2 をインストールする場合は、SAS/C 機能 (FMID *SSCR70C* および *SSCR70D*) を再インストールする必要はありません。

ELS 機能の ACCEPT

SMP/E JCL ライブラリ内の *I80ACC* サンプルメンバーを使用して、適切なターゲットゾーンに ELS 機能を ACCEPT します。

I80ACC ジョブを実行するには:

1. メンバー *I80ACC* の編集モードに入り、*CHGIT* コマンドを実行して *CHGIT* の編集を適用します。
2. *I80ACC* ジョブを送信します。

このジョブで実行されるすべての手順でリターンコードは 4 以下となります。それ以外のリターンコードが返された場合は、StorageTek ソフトウェアサポートにお問い合わせください。

CHGIT の使用が推奨されますが、これはオプションです。*CHGIT* を使用しないことを選択する場合は、*I80ACC* サンプルメンバーのプロログにある指示に従って、必要に応じて編集し、ジョブを送信します。

実際の *ACCEPT* プロセスの前に、必要に応じて *ACCEPT CHECK* オプションを必要な回数だけ使用して SMP/E 処理の問題を識別できます。基本機能を正常にインストールするには、あらかじめ検知された SMP/E に関する問題をすべて解決しておく必要があります。

次の警告について考慮してください。

- ELS 7.2 製品コンポーネントをその製品の以前のリリースを含む既存のグローバル SMP/E CSI 内にインストールする場合は、*SMPCSI* 文が既存のグローバル CSI を指している必要があります。
- 以前のリリースの LibraryStation または MVS/CSC を含むグローバル SMP/E CSI 内に LibraryStation 7.2 または MVS/CSC 7.2 をインストールする場合は、SAS/C 機能 (FMID *SSCR70C* および *SSCR70D*) を再インストールする必要はありません。

第3章 ELS 保守のインストール

この章では、ELS 保守のインストール方法について説明します。ここでは、次のトピックについて説明します。

- 「保守インストールデータセット」
- 「ELS 累積サービスの内容」
- 「ELS 保守の SMP/E JCL サンプルのアンロード」
- 「累積保守のアンロード」
- 「SMP/E RECEIVE 保守」
- 「SMP/E APPLY 保守」
- 「SMP/E ACCEPT 保守」
- 「HELD ELS PTF の分離」

ELS 7.2 用および ELS 7.2 と共存している Oracle StorageTek ソフトウェアのすべてのリリース用の最新の累積保守 (PTF および *HOLDDATA*) を入手してインストールする必要があります。My Oracle Support (MOS) サイトから累積保守をダウンロードします。

<http://www.myoraclesupport.com>

HOLDDATA および PTF 更新についてこのサイトに頻繁にアクセスし、定期的に累積保守更新をインストールしてください。PTF は、毎月 MOS にリリースされます。

保守のインストールを行う前に、利用可能な最新の保守の情報について、Oracle Global Customer Services に問い合わせてください。Oracle へのお問い合わせについては、「はじめに」を参照してください。

注記:

PTF および *HOLDDATA* は ELS リリース時に存在しない可能性があります。しばらくすると、毎月 MOS にリリースされます。

保守インストールデータセット

SMP/E を使用して ELS 保守をインストールします。したがって、ELS ベース製品のインストールに使用される SMP/E ターゲットおよび配布ライブラリが必要になります。これらのライブラリの詳細については、「[ターゲットおよび配布ライブラリデータセットの割り振り](#)と、[必須の DDDEF エントリ](#)」を参照してください。

ELS 累積サービスの内容

ELS 累積保守は ZIP ファイルで配布されます。次の表では、ZIP ファイルに含まれるファイルについて説明します。

表3.1 ELS 7.2 累積サービスの内容 (コードディレクトリ)

ファイル番号	データセット名	説明
1	els72.cvr	PTF カバーレターと JCL サンプル
2	els72.hdd	SMP/E <i>HOLDDATA</i>
3	els72.ptf	サービス PTF
4	els72.smm	サマリーデータ

ELS 保守の SMP/E JCL サンプルのアンロード

ELS 保守をインストールするためのサンプル JCL メンバーは、ELS インストールプロセス中に ELS ZIP ファイル、インストールテープ、または CD-ROM からアンロードされています。詳細については、「[SMP/E JCL ライブラリのアンロード](#)」を参照してください。

これらの JCL サンプルはマスモードでも、個々の SYSMOD での保守でも使用できます。

累積保守のアンロード

次の作業を実行して、カバーレター、HOLDDATA、PTF、およびサマリーデータをアンロードします。

1. 次の例に示すように、次の FTP 受け取り側データセットを事前に割り振っておきます。「*hlq*」を高位識別子に変更します。「*vr*」を 72 に変更します。

```
Data Set Name . . . :hlq.ELSVr.HDD - HOLDDATA
// RECFM=FB, LRECL=80, SPACE=(27920, (30, 30))
```

```
Data Set Name . . . :hlq.ELSVr.PTF - PTFs
// RECFM=FB,LRECL=80,SPACE=(27920,(13000,300))
```

```
Data Set Name . . . :hlq.ELSVr.CVR - Cover Letters
// RECFM=FB,LRECL=80,SPACE=(27920,(30,30))
```

```
Data Set Name . . . :hlq.ELSVr.SMM - Summary
// RECFM=FB,LRECL=80,SPACE=(27920,(30,30))
```

2. DOS ウィンドウを開き、*cd* (ディレクトリ変更) コマンドを使用して、ダウンロードした累積保守ファイルが含まれるディレクトリに移動します。
3. 次のコマンドを入力します。

```
FTP mvshost
(Supply your user and password credentials.)
```

```
binary
```

```
mput els72.cvr
mput els72.hdd
mput els72.ptf
mput els72.smm
```

```
quit
```

mput コマンドをこの順序で実行すると、次のファイルがコピーされます。

- *els72.cvr*
- *els72.hdd*
- *els72.ptf*
- *els72.smm*

コピー先は、MVS システムの次のデータセットとなります。

- *hlq.ELS72.CVR*

- *hlq.ELS72.HDD*
- *hlq.ELS72.PTF*
- *hlq.ELS72.SMM*

ここで、*hlq* は高位修飾子です。

SMP/E RECEIVE 保守

サンプルメンバー *MAINTRCF* には、FMID ごとに *SMP/E RECEIVE* 保守を実行するためのサンプル JCL が収められています。

このサンプルメンバーを次のように変更します。

- *hlq.ELS72.PTF* データセットを指すように、*SMPPTFIN* DD 文を変更します。
- *hlq.ELS72.HDD* データセットを指すように *SMPHOLD* DD 文を変更します。

保守を実行するには、サンプルメンバーのプロログに表示されている指示に従い、ジョブを送信します。

このジョブで実行するすべてのステップの場合、リターンコードはゼロ (0) であることが必要です。それ以外のリターンコードが返された場合は、StorageTek ソフトウェアサポートにお問い合わせください。

SMP/E APPLY 保守

サンプルメンバー *MAINTAPF* には、FMID ごとに *SMP/E APPLY* 保守を実行するためのサンプル JCL が収められています。

実際の *SMP/E APPLY* の前に *SMP/E APPLY CHECK* を実行するために必要な変更および手順については、サンプルメンバーのプロログにある指示に従ってください。ジョブを送信し、保守を適用します。

注記:

APPLY に SMC JES3 FMID が含まれている場合は、サンプル JCL 内の *APPLY* コマンドで *ASSEM* オプションを指定する必要があります。

SMP/E ACCEPT 保守

注記:

保守の *SMP/E ACCEPT* の実行は、オプションです。

サンプルメンバー *MAINTACF* には、FMID ごとに *SMP/E ACCEPT* 保守を実行するためのサンプル JCL が収められています。

実際の *SMP/E ACCEPT* の前に *SMP/E ACCEPT CHECK* を実行するために必要な変更および手順については、サンプルメンバーのプロログにある指示に従ってください。ジョブを送信し、保守を適用します。

HELD ELS PTF の分離

HOLDSYSTEM 例外データのために適用できなかった PTF を特定するために、前のセクションの *APPLY* の実行による出力結果を確認します。その PTF のカバーレターを確認し、使用している環境にその PTF を適用できるかを判別します。一般的に、*HOLDSYSTEM* で使用する ELS SYSMODS には、次の 2 つの種類があります。

- テープ管理システムのスクラッチ変換モジュール (*SLUDRCA1*、*SLUDRRMM*、*SLUDRSMC*、*SLUDRTL*M、および *SLUDRZAR*) を更新する SYSMODS。
- ELS SMP/E 環境の制御範囲を超えた依存関係を持つ SYSMODS。たとえば、ELS PTF の中には、特殊な MVS PTF の適用が必要なものもあります。適用しないと、自動処理パッケージを変更しなければなりません。

HOLDSYSTEM 例外データのために適用されなかった SYSMODS の確認結果に基づき、次の 4 つの PTF のリストを作成します。

- リスト 1

使用しているサイトにインストールされていないテープ管理システムのテープ管理システム PTF が含まれます。

- リスト 2

使用しているサイトにテープ管理システムがインストールされており、ソースの修正が必要な場合の、テープ管理システム PTF が含まれます。

- リスト 3

使用しているサイトが PTF カバーレターで定義された条件を満たさないために適用されない非テープ管理システム PTF が含まれます。

- リスト 4

HOLDSYSTEM 例外データのために保留となっている、そのほかのすべての PTF が含まれます。これらは、使用しているインストールに適用できない、保留となっている PTF です。含まれるものは、テープ管理システムが使用しているサイトでインストールされるテープ管理システム PTF であり、ソースコードを修正する必要はありません。

適用可能な ELS HOLDSYSTEM SYSMODS の APPLY

次の例に示すサンプル JCL を使用して、適用可能な *HOLDSYSTEM* SYSMODS に対して *SMP/E APPLY* を実行します。

例3.1 SMP/E APPLY HOLDSYSTEM SYSMODS に対する JCL

```
//jobname JOB .....
//S1      EXEC smpe-proc
//SMPCNTL DD *
  SET BDY(target-zone) .
  APPLY PTFS
    EXCLUDE(ptf1,ptf2,.....ptfn)
    GROUPEXTEND
    FORFMID(
      /* FMID-id */
    )
    BYPASS(HOLDSYSTEM)
    ASSEM
  .
/*
```

第4章 ELS インストール後のタスクの実施

この章では、ELS インストール後のタスクについて説明します。次のトピックがあります。

- 「[ELS ロードライブラリの許可](#)」
- 「[SMC インストール後のタスクの実施](#)」
- 「[HSC インストール後のタスクの実施](#)」
- 「[JES3 インストール後のタスクの実施](#)」

次に進む前に、2章「[ELS および追加ソフトウェアのインストール](#)」で説明したインストールタスクが終了していることを確認してください

VTCS には、インストール後のタスクはありません。必要な VTCS 構成タスクについては『[HSC および VTCS の構成](#)』を参照してください。

ELS ロードライブラリの許可

SMC、HSC、および VTCS は、MVS で許可プログラムとして実行する必要があります。したがって、次の手順を実行して、ELS ロードライブラリを APF 許可する必要があります。

1. `SYS1.PARMLIB` の `IEAAPFzz` または `PROGzz` メンバーのどちらかに ELS ロードライブラリを追加します。
2. 「[ELS ロードライブラリの許可](#)」に説明されているコマンドを発行してロードライブラリを許可します。

IEAAPFzz メンバーへの ELS ロードライブラリの追加

ELS ロードライブラリを承認するには、`IEAAPFzz` メンバーに次のエントリを追加します。

```
your.SEALINK volser,
```

このエントリを許可プログラムリストに追加する前に、高位修飾子および *volser* を、使用するシステムに適した値に編集してください。

IEAAPFzz メンバーに複数のエントリが存在する場合は、各エントリ (最後を除く) が、続きを示すコンマで終わっている必要があります。最後のエントリにはコンマは付けません。

注記:

ELS ロードライブラリが SMS 管理対象ボリュームにある場合は、許可されたライブラリエントリにボリュームを指定する必要はありません。この場合、ライブラリが SMS 管理対象であることを示すために、ライブラリ名のあとには何も指定しないでください。間違ったボリュームを指定した場合、そのライブラリは許可できません。

PROGzz メンバーへの ELS ロードライブラリの追加

ELS ロードライブラリを承認するには、*PROGzz* メンバーに次のエントリを追加します。

```
APF ADD
      DSNNAME(your.SEALINK)
      VOLUME(volser) | SMS
```

このエントリを許可プログラムリストに追加する前に、高位修飾子および *volser* を、使用するシステムに適した値に編集してください。

注記:

ELS ロードライブラリが SMS 管理対象ボリュームにある場合は、許可されたライブラリエントリにボリュームを指定する必要はありません。この場合、ライブラリが SMS 管理対象であることを示すために、該当するライブラリ名の後ろにリテラルで「SMS」を指定します。間違ったボリュームを指定した場合、そのライブラリは許可できません。

ELS ロードライブラリの許可

IEAAPFzz または *PROGzz* メンバーへのエントリの追加は、IPL の実行時にライブラリが承認されるようにするために必要です。

また、稼働中のシステム上にあるライブラリを動的に許可するには、次の MVS システムコマンドを発行します。

ライブラリが SMS 管理対象の場合は、次のコマンドを発行します。

```
SETPROG APF,ADD,DSN=your.SEALINK,SMS
```

ライブラリが SMS 管理対象でない場合は、次のコマンドを発行します。

```
SETPROG APF,ADD,DSN=your.SEALINK,volser
```

高位修飾子および *volser* を、使用するシステムに適した値に編集してください。

SMC インストール後のタスクの実施

このセクションでは、必要な SMC インストール後のタスクについて説明します。次のトピックがあります。

- [「SMC の MVS サブシステムとしての定義」](#)
- [「MVS LINKLIST ライブラリへの SMCBPREI モジュールのコピーまたは移動」](#)
- [「MVS プログラム属性テーブルへの SMC の追加」](#)
- [「SMC データスペースに関する考慮事項」](#)

SMC の MVS サブシステムとしての定義

SMC は動的に定義される MVS サブシステムとして実行されます。マスター MVS サブシステムのもとで実行することも、プライマリジョブ入力サブシステムのもとでセカンダリサブシステムとして実行することもできます。

多くの場合、SMC はインストール時に動的に定義されるため、MVS サブシステム名テーブルに追加する必要はありません。

ただし、次の条件に該当する場合、必要に応じて MVS サブシステム名テーブル (*SYS1.PARMLIB* メンバー *IEFSSNzzz*) に SMC を追加する必要があります。

- SMC とテープ管理システムを同じホストで実行し、テープ管理システムが MVS 動的サブシステムとしても実行されている場合、メッセージ処理の正しい順序を確認するため、サブシステム名テーブルへ、テープ管理システムと SMC の両方を追加してください。[テープ管理システムとの相互作用およびサブシステム名テーブル](#)を参照してください。
- 同じホストで SMC および Unicenter CA-MIA 製品を実行する場合、EDL 処理が必ず正しい順番で行われるようにするために、Unicenter CA-MIA および SMC の両方をサブシステム名テーブルに追加してください。「[Unicenter CA-MIA との相互作用およびサブシステム名テーブル](#)」を参照してください。
- 同じホストで SMC、テープ管理システム、および Unicenter CA-MIA 製品を実行する場合、これらの 3 つをサブシステム名テーブルに追加してください。

「[SMC、TMS、Unicenter CA-MIA 間の相互作用およびサブシステム名テーブル](#)」を参照してください。

- マスター MVS サブシステム (プライマリジョブ入力サブシステムではなく) のもとで SMC を実行するには、SMC をサブシステム名テーブルに追加してください。「[MSTR およびサブシステム名テーブルのもとの SMC の実行](#)」を参照してください。

また、SMC *START* 手順を含む *PROCLIB* は、マスターアドレス空間の *PROCLIB* 連結に存在しなければなりません。この連結は、DD *IEFPDSI* の下の *SYS1* *.PARMLIB(MSTJCLzz)* で定義されます。

テープ管理システムとの相互作用およびサブシステム名テーブル

テープ管理システム (TMS) を実行する場合、必ず SMC の前に MVS マウントメッセージが処理されるようにする必要があります。(TMS) エントリが SMC エントリの前に来るように、テープ管理システムおよび SMC をサブシステム名テーブルに追加します。次の例では、CA-1 リリース 5.1 以降および SMC のエントリを示しています。

```
SUBSYS SUBNAME(JES2) PRIMARY(YES) START(NO)
SUBSYS SUBNAME(TMS)
SUBSYS SUBNAME(SMC0) INITRTN (SMCBPREI)
```

テープ管理システムを同じホストにインストールする場合、テープ管理システムおよび SMC の両方をサブシステム名テーブルに追加することをお勧めしています。

次は、両方が動的サブシステムである場合のテープ管理システムと SMC のサブシステム名定義シナリオです。

• シナリオ 1

このシナリオでは、SMC と TMS の両方がサブシステム名テーブルで定義されます。このシナリオはサポートされており、推奨されます。テーブル中、TMS は SMC の前になければなりません。

• シナリオ 2

このシナリオでは、SMC がサブシステム名テーブルに定義されていますが、TMS は定義されていません。このシナリオはサポートされていません。TMS は SMC の前に MVS マウントメッセージの処理を実行できません。

- シナリオ 3

このシナリオでは、TMS がサブシステム名テーブルに定義されていますが、SMC は定義されていません。このシナリオはサポートされていますが、推奨されません。SMC は必ず TMS のあとに起動しなければなりません。

注記:

「サブシステム名テーブルの SMC に関する修正についての注意」を参照してください。

Unicenter CA-MIA との相互作用およびサブシステム名テーブル

同じホストで Unicenter CA-MIA 製品を実行する場合、Computer Associates では、Unicenter CA-MIA の定義の前に、SMC を定義し、Unicenter CA-MIA および SMC の両方をサブシステム名テーブルに追加することをお勧めしています。

次の例では、SMC および Unicenter CA-MIA のエントリを示しています。

```
SUBSYS SUBNAME(JES2) PRIMARY(YES) START(NO)
SUBSYS SUBNAME(SMC0) INITRTN(SMCBPRI)
SUBSYS SUBNAME(MIA)
```

Unicenter CA-MIA の互換性を実現するには、SMC での `ALLOCDEF MIACOMPAT(ON)` オプションの指定も必要です。`ALLOCDEF` コマンドについては、『ELS コマンド、制御文、およびユーティリティーリファレンス』を参照してください。

注記:

「サブシステム名テーブルの SMC に関する修正についての注意」を参照してください。

SMC、TMS、Unicenter CA-MIA 間の相互作用およびサブシステム名テーブル

同じホストで SMC、テープ管理システム (TMS)、および Unicenter CA-MIA 製品すべてを実行する場合、これらの 3 つの製品すべてを、次の例に示した順番でサブシステム名テーブルに追加してください。

```
SUBSYS SUBNAME(JES2) PRIMARY(YES) START(NO)
SUBSYS SUBNAME(TMS)
SUBSYS SUBNAME(SMC0) INITRTN(SMCBPRI)
SUBSYS SUBNAME(MIA)
```

Unicenter CA-MIA の互換性を実現するには、SMC での `ALLOCDEF MIACOMPAT(ON)` オプションの指定も必要です。`ALLOCDEF` コマンドについては、『*ELS コマンド、制御文、およびユーティリティーリファレンス*』を参照してください。

注記:

「[サブシステム名テーブルの SMC に関する修正についての注意](#)」を参照してください。

MSTR およびサブシステム名テーブルのもとでの SMC の実行

プライマリジョブ入力サブシステムではなく、MSTR サブシステムのもとで SMC を実行するには、次のエントリをサブシステム名テーブルに追加して、SMC サブシステム名を識別する必要があります。

`SUBSYS SUBNAME(SMC0)`

使用しているプライマリジョブ入力サブシステムが JES3 である場合、SMC は *MSTR* の下では実行できず、JES3 の下で実行する必要があります。

SMC サブシステムが *MSTR* のもとで実行される場合、SMC *START* 手順で *PARM* パラメータの *MSTR* オプションも含める必要があります。SMC *START* 手順の作成については、『*SMC の構成と管理*』を参照してください。

MSTR の下で実行するためにサブシステム名テーブルに SMC を追加する代わりとして、MVS *Start* コマンドで *SUB=MSTR* パラメータを指定して SMC サブシステムを起動する方法があります。SMC *START* 手順の実行については、『*SMC の構成と管理*』を参照してください。

サブシステム名テーブルの SMC に関する修正についての注意

次の点を考慮してください。

- `SUBNAME(name)` パラメータは SMC *START* 手順名と一致する 1 - 4 文字の名前を指定します。`SUBNAME(name)` パラメータを使用して定義する SMC サブシステム名が SMC *START* 手順の名前に一致しない場合は、*START* 手順内の *PARM* パラメータに *SYSS* オプションを含める必要があります。SMC *START* 手順の作成については、『*SMC の構成と管理*』を参照してください。
- 定位置指定形式ではなく、`SUBSYS` コマンドのキーワード形式を使用する必要があります。サブシステム名の定義についての詳細は、IBM z/OS の資料を参照してください。

- サブシステム名を動的に定義していない場合、SMC サブシステム名のエントリを有効にするには、MVS ホストシステムの IPL を実行する必要があります。
- Unicenter CA-MIA サブシステム名をサブシステム名テーブルに追加した場合は、次のいずれかの状態でなくてはなりません。
 - このサブシステムを使用するスターテッドタスクは、マスターアドレス空間の *PROCLIB* 連結に存在することが必要です。この連結は、DD *IEFPDSI* の下の *SYS1.PARMLIB(MSTJCLzz)* で定義されます。
 - Unicenter CA-MIA の *Start* コマンドでは *SUB=JES2* が指定される必要があります。

たとえば、*S CAMIA, SUB=JES2* とします。

MVS LINKLIST ライブラリへの SMCBPREI モジュールのコピーまたは移動

SMC をセカンダリ MVS サブシステムとして実行する場合、*SEALINK* ライブラリ内に存在する SMC サブシステム初期化前ルーチンモジュール (*SMCBPREI*) は、MVS *LINKLIST* ライブラリ内にも存在する必要があります。*SMCBPREI* モジュールは、*SEALINK* から *LINKLIST* ライブラリにコピーまたは移動できます。

SMCBPREI 初期化前ルーチンモジュールは、SMC リリース間で機能的に互換性があります。ただし、将来の互換性のために、*SMCBPREI* 初期化前モジュールの最新のリリースを使用してください。

MVS プログラム属性テーブルへの SMC の追加

MVS プログラム属性テーブル (PPT) を修正して、SMC サブシステムに関するエントリを追加する必要があります。

SYS1.PARMLIB のメンバー *SCHEDzz* に次のエントリを追加します。

```
PPT PGMNAME(SMCBINT), PRIV, SYST, KEY(3)
```

注記:

- SMC の実行には、(1-7 の) ローキーを使用します。このセクションの例では、キー 3 を使用しています。キー 8-15 を使用すると、予測できない結果が生じます。
- *SCHEDzz* メンバーを変更したあと、IPL または動的な更新を実行する必要があります。

SMC データスペースに関する考慮事項

SMC は、*SCOPE=COMMON* のデータスペースを使用して相互アドレス空間通信を実行します。*IEASYSzz* メンバーの *MAXCAD* パラメータが、SMC を示すように *MVS* で適切に設定されていることを確認してください。このパラメータは、*MVS* システムで利用できる共通のデータスペースの数を制御します。

詳細については、IBM z/OS の資料を参照してください。

HSC インストール後のタスクの実施

このセクションでは、必要な HSC インストール後のタスクについて説明します。次のトピックがあります。

- 「HSC の *MVS* サブシステムとしての定義」
- 「HSC ユーザー出口ライブラリの許可」
- 「*MVS LINKLIST* ライブラリへの *SLSBPRI* モジュールのコピーまたは移動」
- 「*MVS* プログラム属性テーブルへの HSC の追加」
- 「HSC および *VTCS* の *SMF* パラメータの追加」
- 「*TMS* インタフェース (*SLUDR**) ルーチンの再アセンブル」

HSC の *MVS* サブシステムとしての定義

HSC は、マスター *MVS* サブシステムのもとで実行することも、プライマリジョブ入力サブシステムのもとでセカンダリサブシステムとして実行することもできます。

- HSC をマスター *MVS* サブシステムの下で実行する場合は、サブシステム名テーブル (*SYS1.PARMLIB* メンバー *IEFSSNzz*) に、サブシステム名を識別する行を追加する必要があります。これは、HSC スタートアップ手順の手順名に対応する、1-4 文字の名前です。
- HSC をセカンダリ *MVS* サブシステムとして実行する場合は、サブシステム名テーブル (*SYS1.PARMLIB* メンバー *IEFSSNzz*) に、次を識別する行を追加する必要があります。
 - サブシステム名。これは、HSC *START* 手順名に対応する 1-4 文字の名前です。
 - HSC サブシステム初期設定ルーチン名。これは *SLSBPRI* でなければなりません。

HSC サブシステム名を *SLS0* とすると、HSC をマスター MVS サブシステムのもとであるいはセカンダリ MVS サブシステムとして実行する場合、HSC をサブシステム名テーブルに正しく追加するには、次の行を追加します。

```
SUBSYS SUBNAME(SLS0) INITRTN(SLSBPRI) /* keyword format */
```

MVS *SETSSI* コマンドを使用して HSC サブシステム名を動的に定義することも可能です。例:

マスターサブシステムの下で実行している場合:

```
SETSSI ADD, SUB=SLS0
```

セカンダリサブシステムとして実行している場合:

```
SETSSI ADD, SUB=SLS0, INITRTN=SLSBPRI
```

どちらの例でも、*SLS0* は HSC サブシステム名、*SLSBPRI* は HSC サブシステム初期設定ルーチン名です。

注記:

- ・サブシステム名テーブルで指定した HSC サブシステム名が HSC START タスク手順の名前に合っていない場合は、START 手順の PARM パラメータに SYSS オプションを追加する必要があります。HSC 起動手順の作成については、『HSC および VTCS の構成』を参照してください。
 - ・HSC サブシステム名を動的に定義していない場合、HSC サブシステム名のエントリを有効にするには、MVS ホストシステムの IPL を実行する必要があります。
 - ・HSC サブシステム名を動的に定義していない場合、HSC サブシステム名のエントリを有効にするには、MVS ホストシステムの IPL を実行する必要があります。
 - ・サブシステム名の定義についての詳細は、IBM z/OS の資料を参照してください。
-

HSC ユーザー出口ライブラリの許可

HSC ユーザー出口ライブラリは、HSC ロードライブラリと同じライブラリでも、異なるライブラリでも許容されます。HSC ユーザー出口ライブラリが別のライブラリの場合は、次の手順を実行して、ユーザー出口ロードライブラリを APF 許可する必要があります。

1. *SYS1.PARMLIB* の *IEAAPFzz* または *PROGzz* メンバーのどちらかに HSC ユーザー出口ロードライブラリを追加します。

2. 「[HSC ユーザー出口ロードライブラリの許可](#)」に説明されているコマンドを発行してロードライブラリを許可します。

IEAAPFzz メンバーへの HSC ユーザー出口ロードライブラリの追加

HSC ユーザー出口ロードライブラリを承認するには、*IEAAPFzz* メンバーに次のエントリを追加します。

```
your.SEALINK      volser  
your.HSC_USEREXIT.LOAD      volser
```

これらのエントリを許可プログラムリストに追加する前に、高位修飾子および *volser* を、使用するシステムに適した値に編集してください。

IEAAPFzz メンバーに複数のエントリが存在する場合は、各エントリ (最後を除く) が、続きを示すコンマで終わっている必要があります。最後のエントリにはコンマは付けません。

注記:

HSC ユーザー出口ロードライブラリが SMS 管理対象ボリュームにある場合は、許可されたライブラリエントリにボリュームを指定する必要はありません。この場合、ライブラリが SMS 管理対象であることを示すために、ライブラリ名のあとには何も指定しないでください。間違ったボリュームを指定した場合、そのライブラリは許可できません。

PROGzz メンバーへの HSC ユーザー出口ロードライブラリの追加

HSC ユーザー出口ロードライブラリを承認するには、*PROGzz* メンバーに次のエントリを追加します。

```
APF ADD  
  DSNAME(your.SEALINK)  
  VOLUME(volser) | SMS  
APF ADD  
  DSNAME(your.HSC_USEREXIT.LOAD)  
  VOLUME(volser) | SMS
```

このエントリを許可プログラムリストに追加する前に、高位修飾子および *volser* を、使用するシステムに適した値に編集してください。

注記:

HSC ユーザー出口ロードライブラリが SMS 管理対象ボリュームにある場合は、許可されたライブラリエントリにボリュームを指定する必要はありません。この場合、ライブラリが SMS 管理対象であることを示すために、該当するライブラリ名の後ろにリテラルで「SMS」を指定します。間違ったボリュームを指定した場合、そのライブラリは許可できません。

HSC ユーザー出口ロードライブラリの許可

IEAAPFzz または *PROGzz* メンバーへのエントリの追加は、IPL の実行時にライブラリが承認されるようにするために必要です。また、稼働中のシステム上にあるライブラリを動的に許可するには、次の MVS システムコマンドを発行します。

ライブラリが SMS 管理対象の場合:

```
SETPROG APF,ADD,DSN=your.HSC_USEREXIT.LOAD,SMS
```

ライブラリが SMS 管理対象ではない場合:

```
SETPROG APF,ADD,DSN=your.HSC_USEREXIT.LOAD,volser
```

どちらのコマンドでも、高位修飾子および *volser* を、使用するシステムに適した値に編集してください。

MVS LINKLIST ライブラリへの SLSBPRESI モジュールのコピーまたは移動

HSC をセカンダリ MVS サブシステムとして実行する場合、*SEALINK* ライブラリ内に存在する HSC サブシステム初期化前ルーチンモジュール (*SLSBPRESI*) は、MVS *LINKLIST* ライブラリ内にも存在する必要があります。*SLSBPRESI* モジュールを *SEALINK* ライブラリから *LINKLIST* ライブラリにコピーまたは移動できます。

SLSBPRESI 事前初期設定ルーチンモジュールは、HSC の各リリース間で、機能の互換性があります。ただし、それ以上の互換性については、*SLSBPRESI* 事前初期設定モジュールの最新のリリースを使用してください。

MVS プログラム属性テーブルへの HSC の追加

MVS プログラム属性テーブル (PPT) を修正して、HSC サブシステムに関するエントリを追加する必要があります。

SYS1.PARMLIB のメンバー *SCHEDzz* に次のエントリを追加します。

PPT PGMNAME(SLSBINIT), PRIV, SYST, KEY(3)

注記:

HSC の実行には、(1-7 の) ローキーを使用します。このセクションの例では、キー 3 を使用しています。キー 8-15 を使用すると、SOC1 や SOC4 の異常終了などの予測不可能な結果が生じます。

HSC および VTCS の SMF パラメータの追加

HSC は、HSC および VTCS イベントの SMF レコードサブタイプを生成できます。これらのレコードのサブタイプを生成するには、*SYS1.PARMLIB* のメンバー *SMFPRMzz* 内のシステム管理機能 (SMF) パラメータに 2 行を追加し、次の項目を指定する必要があります。

- HSC サブシステム名
- HSC 記録間隔、*INTERVAL(hhmmss)* として指定。

値が小さいほどデータの記録頻度は多くなります。

ライブラリパフォーマンスへの影響を避けるため、指定時間は最低 15 分 (001500) とするよう強くお勧めしています。VSM をサポートしない HSC システムについては、1 時間間隔 (010000) の指定をお勧めしています。

- HSC SMF レコードタイプ
- 記録対象の HSC/VTCS SMF レコードサブタイプ。

HSC および VTCS が生成できるサブタイプの詳細は、『*ELS プログラミングリファレンス*』を参照してください。

HSC サブシステム名が *SLS0* の場合、HSC および VTCS レコードサブタイプを追加する行の例を次に示します。

```
SUBSYS(SLS0, INTERVAL(001500), TYPE(255))
SUBPARM(SLS0(SUBTYPE(1-8, 10, 11, 13-21, 25-33)))
```

注記:

SMF オプションで *SUBTYPE* パラメータを指定しない場合、HSC は 1 から 6 のサブタイプを生成します。カートリッジの移動および表示レコードを生成するには、*SUBPARM* パラメータをコーディングし、サブタイプ 7 と 8 を組み込む必要があります。

TMS インタフェース (SLUDR*) ルーチンの再アセンブル

使用しているテープ管理システムと関連リリースレベルによっては、HSC *SLUCONDB* ユーティリティおよび SMC *SMCUDBX* ユーティリティによって呼び出される TMS (テープ管理システム) インタフェース (*SLUDR**) ルーチンを再アセンブルしなければならない場合があります。これらのルーチンにローカルで修正を加えている場合も、再アセンブルが必要です。これらのルーチンは、ELS のインストール中に生成された *SEALINK* ライブラリに含まれています。

注記:

- TMS インタフェースルーチンのソースは ELS 7.0 で変更されました。*SLUDR** に一致する名前を持つモジュールにローカル変更を加えた場合は、ELS 7.0/7.1/7.2 ソースをローカル変更で変更して再アセンブルする必要があります。古いバージョンの *SLUDR** モジュールは、*SLUCONDB* の ELS 7.0/7.1/7.2 バージョンに対応していません。
 - *SLUCONDB* および *SMCUDBX* ユーティリティ、および TMS インタフェースルーチンの詳細については、『ELS コマンド、制御文、およびユーティリティリファレンス』を参照してください。
 - スクラッチ更新 (*SLUCONDB*) ユーティリティの詳しい再アセンブル要件については、『HSC および VTCS の管理』を参照してください。
-

JES3 インストール後のタスクの実施

このセクションでは、*TAPE SETUP* 処理を実行する JES3 環境に必要なインストール後のタスクについて説明します。次のトピックがあります。

- 「[SMC のための SMCERSLV モジュールのアセンブルおよびリンク編集](#)」
- 「[SMC JES3 ロードライブラリの許可](#)」
- 「[SMC Type 1 の修正の作成およびインストール](#)」
- 「[SMC の JES3 IATUX09 ユーザー出口の修正の作成およびインストール](#)」
- 「[SMC の JES3 IATUX71 ユーザー出口の修正の作成およびインストール](#)」

SMC のための SMCERSLV モジュールのアセンブルおよびリンク編集

ASSEM オプションで SMC JES3 サポート機能をインストールした場合は、*SMCERSLV* モジュールのリンク編集とアセンブリが自動的に実行されています。*SMCERSLV* モジュールは、SMC に必要な JES3 マクロフィールドの正しいオフセットと長さを取得します。

SMCERSLV モジュールの初期のアセンブリとリンク編集のあとは、JES3 マクロに IBM 保守が適用されるたびに、このモジュールを手動で再アセンブルする必要があります。特定の JES3 マクロが更新されたら、SMC *SAMPLIB* のメンバー *SMCJRSLV* を実行することによって、*SMCERSLV* の再アセンブルを実行できます。

SMCJRSLV ライブラリメンバーは、MVS/JES3 ターゲットおよび配布ゾーンに対して実行されます。*SMCJRSLV* ジョブのプロログに含まれている指示に従って、必要なすべての変更を行い、ジョブを実行します。

注記:

SMCERSLV モジュールを再アセンブルするには *SMCJRSLV* ライブラリメンバーを使用することを強くお勧めします。JES3 マクロへの保守の適用後に *SMCERSLV* モジュールの再アセンブルを実行しないと、SMC の予測できない動作が起こる可能性があります。

SMC JES3 ロードライブラリの許可

SMC および JES3 のためのロードモジュールのアクセス

SMC JES3 ロードライブラリ内のすべてのロードモジュールが JES3 アドレス空間にアクセスできなければなりません。したがって、次の手順を実行して、SMC JES3 ロードライブラリを APF 許可する必要があります。

1. *SYS1.PARMLIB* の *IEAAPFzz* または *PROGzz* メンバーのどちらかに SMC JES3 ロードライブラリを追加します。
2. 「[SMC JES3 ロードライブラリの許可](#)」に説明されているコマンドを発行してロードライブラリを許可します。

注記:

- JES3 の「ホットスタート」は上記のモジュールをアクティブにする必要があります。
 - *IATIIP1* Type 1 変更の *NOSMC* パラメータが *PROMPT* に設定されている場合は、モジュール *SMCERSLV* が JES3 アドレス空間からアクセス可能である必要があります。この変更については、「[SMC Type 1 の修正の作成およびインストール](#)」を参照してください。
 - モジュール *SMCERSLV* は SMC アドレス空間にアクセスできなければなりません。このモジュールは、*SMZ7200* FMID がインストールされている *SMZLINK* ライブラリに自動的にアセンブルされます。
-

IEAAPFzz メンバーへの SMC JES3 ロードライブラリの追加

SMC JES3 ロードライブラリを承認するには、*IEAAPFzz* メンバーに次のエントリを追加します。

```
your.SMZLINK volser,
```

このエントリを許可プログラムリストに追加する前に、高位修飾子および *volser* を、使用するシステムに適した値に編集してください。

IEAAPFzz メンバーに複数のエントリが存在する場合は、各エントリ (最後を除く) が、続きを示すコンマで終わっている必要があります。最後のエントリにはコンマは付けません。

注記:

SMC JES3 ロードライブラリが SMS 管理対象ボリュームにある場合は、許可されたライブラリエントリにボリュームを指定する必要はありません。間違ったボリュームを指定した場合、そのライブラリは許可できません。

PROGzz メンバーへの SMC JES3 ロードライブラリの追加

SMC JES3 ロードライブラリを承認するには、*PROGzz* メンバーに次のエントリを追加します。

```
APF ADD  
  DSNAME(your.SMZLINK)  
  VOLUME(volser)
```

このエントリを許可プログラムリストに追加する前に、高位修飾子および *volser* を、使用するシステムに適した値に編集してください。

注記:

SMCJES3 ロードライブラリが SMS 管理対象ボリュームにある場合は、許可されたライブラリエントリにボリュームを指定する必要はありません。間違ったボリュームを指定した場合、そのライブラリは許可できません。

SMC JES3 ロードライブラリの許可

IEAAPFzz または *PROGzz* メンバーへのエントリの追加は、IPL の実行時にライブラリが承認されるようにするために必要です。また、稼働中のシステム上にあるライブラリを動的に許可するには、次の MVS システムコマンドを発行します。

ライブラリが SMS 管理対象の場合:

```
SETPROG APF,ADD,DSN=your.SMZLINK,SMS
```

ライブラリが SMS 管理対象ではない場合:

```
SETPROG APF,ADD,DSN=your.SMZLINK,volser
```

どちらのコマンドでも、高位修飾子および *volser* を、使用するシステムに適した値に編集してください。

SMC Type 1 の修正の作成およびインストール

TAPE SETUP 処理を実行する JES3 環境では、特定の JES3 モジュールに対するタイプ 1 変更の作成および SMP/E インストールが必要です。

注記:

現在 HSC、MVS/CSC、または以前のリリースの SMC が実行されている MVS/JES3 システム上で SMC を実行しようとする場合は、既存の Type 1 の修正を削除し、SMC Type 1 の修正を作成してインストールする必要があります。

SMC Type 1 の修正の作成

次の各 JES3 モジュールに対する SMC Type 1 変更を作成するには、*SMCEHOOK* マクロを使用します。

IATIICM (オプション)

JES3 モジュール *IATIICM* に対する Type 1 の修正により、SMC は、JCL DD 文に指定されている場合、DFSMS *DATACLAS* の記録技法とメディアの値を取り出せるようになります。JCL DD 文に *DATACLAS* が指定されるようにインストールしている場合に限り、これらの修正をインストールしてください。

IATIIP1 (必須)

JES3 モジュール *IATIIP1* に対する Type 1 の修正により、SMC でデバイス分離が可能になります。*SMCEHOOK* マクロは、SMC がデータセットのボリュームがどこに存在するかを判定し、ジョブの中間ジョブサマリーテーブル (IJS) 内のそのボリュームの位置に基づいてエソテリック名を置換できるようにする、*IATIIP1* モジュール内の *ACALL* を提供します。次に、JES3 はそのジョブに対するジョブサマリーテーブル

(JST)を作成します。これは、デバイス設定の変更およびボリューム介入処理に使用されるものです。この Type 1 の修正は必須です。

SMCEHOOK マクロの *NOSMC* パラメータをコーディングして、C/I 処理の発生時に SMC がアクティブでない場合に JES3 C/I に実行させるアクションを示します。SMC がまだ初期化されていない場合に JES3 割り振りを続行するかどうかに基づき、パラメータ値を選択します。有効な値とアクションは次のとおりです。

- *NOSMC=PROMPT* である場合は、1 つの C/I プロセスがオペレータに SMC を起動するよう求め、SMC の初期化を待ちます。
- *NOSMC=NONE* である場合は、C/I プロセスが StorageTek テープサブシステムなしで続行されます。

IATMDAL (必須)

JES3 モジュール *IATMDAL* に対する Type 1 の修正により、SMC でデバイス設定の変更ができるようになります。*SMCEHOOK* マクロは、SMC がトランスポートの割り当てをそのボリュームを含むもっとも近い LSM (特定の要求)、または最大数のスクラッチボリュームを含む LSM (不特定の要求) に送信できるようにする、*IATMDAL* モジュール内の *ACALL* を提供します。ジョブに対して作成された JST は、デバイス設定の変更およびボリューム介入処理に使用されます。この Type 1 の修正は必須です。

SMCEHOOK マクロの *TASKID* パラメータをコーディングして、デバイス優先度のタスク ID を示します。使用できる値の範囲は 151-255 です。デフォルト値は 203 です。

IATMDFE (オプション)

JES3 モジュール *IATMDFE* に対する Type 1 の修正により、SMC は、動的な割り振りの間にライブラリカートリッジトランスポートのオペレータ介入メッセージを抑止できます。介入メッセージを抑止する場合にこの修正をインストールします。ユーザー修正はオプションです。

SMC Type 1 の修正のインストール

SMCEHOOK マクロのプロログには、その使用に関連した詳細な指示が示されています。*SMCEHOOK* マクロは、SMCMAC ライブラリ内に存在します。

SMC サンプルメンバー *SMCUIICM*、*SMCUIIP1*、*SMCUMDAL*、および *SMCUMDFE* には、SMC JES3 Type 1 変更の例が含まれています。

JES3 モジュールに SMC Type 1 の修正を作成したあとは、Type 1 の修正の SMP/E インストールをする必要があります。*IATIICM*、*IATIIP1*、*IATMDAL*、および *IATMDFE* に対する SMC Type 1 変更を SMP/E インストールするには、SMC *SAMPLIB* メンバー *SMCJTYP1* を使用します。次の例は、メンバー *SMCJTYP1* に含まれる JCL を示しています。

例4.1 SMCJTYP1 JCL

```
//jobname JOB .....
//INSTTYP1 EXEC PGM=GIMSMP,REGION=4096K
//SMPCSI DD DSN=your.jes3.global.csi,DISP=SHR
//SMPPTFIN DD DSN=your.usermods,DISP=SHR
//SMPHOLD DD DUMMY
//SMPCNTL DD *
SET BDY(GLOBAL).
RECEIVE S(
    LUSIICM
    LUSIIP1
    LUSMDAL
    LUSMDFE
) .
SET BDY(jes3-target-zone) .
APPLY S(
    LUSIICM
    LUSIIP1
    LUSMDAL
    LUSMDFE
) .
/*
```

次の手順を実行します。

1. SMC *SAMPLIB* の作業コピーを表す新しいデータセットを割り当てます。独自の命名規則を使用し、元の SMC *SAMPLIB* と同じ *LRECL*、*RECFM*、および *DSORG* 値を指定します。

注記:

元の SMC *SAMPLIB* は編集しないでください。

2. SMC *SAMPLIB* メンバーの *SMCUIIP1* と *SMCUMDAL* を、手順 1 で割り振りしたデータセットにコピーします。この 2 つのメンバーの最初に表示されている修正を実行します。

手順 2 - 4 で説明されるこのデータセットの編集に際しては、行番号の設定を *OFF* にする必要があります。

3. *IATIICM* への変更が使用しているシステムに適しているかどうかを判定します。適している場合は、SMC *SAMPLIB* メンバーの *SMCUIICM* を手順 1 で割り振りし

たデータセットにコピーします。このメンバーに表示されている修正を実行します。

4. *IATMDFE* への変更が使用しているシステムに適しているかどうかを判定します。適している場合は、SMC *SAMPLIB* メンバーの *SMCUMDFE* を手順 1 で割り振りしたデータセットにコピーします。このメンバーに表示されている修正を実行します。
5. SMC *SAMPLIB* メンバー *SMCJTYP1* を編集します。
 - ローカル標準を満たすように *JOB* カードを変更します。
 - *your.jes3.global.csi* を、JES3 グローバル CSI の名前に変更します。
 - *your.usermods* を手順 1 で割り振りしたデータセットの名前に変更します。
 - *jes3-target-zone* を JES3 SMP/E ターゲットゾーン名に変更します。
 - *IATIICM* への変更をインストールしない場合は、*RECEIVE* および *APPLY* 文から *LUSIICM* 文かを削除します。
 - *IATMDFE* への変更をインストールしない場合は、*RECEIVE* および *APPLY* 文から *LUSMDFE* 文を削除します。
6. ジョブを送信します。

SMC の JES3 IATUX09 ユーザー出口の修正の作成およびインストール

マウントのデファー処理およびライブラリボリュームのオペレータ介入メッセージの抑止を可能にする場合は、JES3 *IATUX09* ユーザー出口の修正の作成および SMP/E インストールが必要です。

SMC の JES3 IATUX09 ユーザー出口の修正の作成

共通の割り振りの間にマウントのデファー処理およびライブラリボリュームのオペレータ介入メッセージの抑止を実行するには、JES3 *IATUX09* ユーザー出口のソースおよびユーザー修正の作成が必要です。

JES3 *IATUX09* ユーザー出口の修正により、ライブラリカートリッジトランスポートのオペレータ介入メッセージの抑止が可能になり、マウント処理機能のデファー処理ができるようになります。ユーザー出口を使用するかどうかはオプションです。ただし、共通の割り振りの間にマウントのデファー処理およびライブラリボリュームのオペレータ介入メッセージの抑止を実行する場合には、インストールする必要があります。

インストールですでに JES3 ユーザー出口 *IATUX09* を使用している場合は、既存のユーザー出口の名前を変更し、新しいロードモジュール名を SETC のオペランドフィールド内のラベル *&OLDUX09* に配置します。サンプルのユーザー出口 *SMC3UX09* にある SETC のラベル *&OLDUX09* を参照してください。

ソースの例は SMC サンプルメンバー *SMC3UX09* に含まれており、ユーザー変更の例は SMC *SAMPLIB* メンバー *SMCUUX09* に含まれています。

SMC の JES3 IATUX09 ユーザー出口の修正のインストール

JES3 *IATUX09* ユーザー出口の修正を作成したあと、そのユーザー出口の修正の SMP/E インストールが必要です。JES3 ユーザー出口の修正の SMP/E インストールを実行するには、サンプルライブラリメンバー *SMCJUX09* を使用します。

次の例は、*SMCJUX09* に含まれる JCL を示しています。

例4.2 SMCJUX09 JCL

```
//jobname JOB .....
//INSTUX09 EXEC PGM=GIMSMP,REGION=4096K
//SMPCSI DD DSN=your.jes3.global.csi,DISP=SHR
//SMPPTFIN DD DSN=your.usermods,DISP=SHR
//SMPHOLD DD DUMMY
//SMPCNTL DD *
SET BDY(GLOBAL) .
RECEIVE S(
    LUSUX09
) .
SET BDY(jes3-target-zone) .
APPLY S(
    LUSUX09
) .
/*
```

次の手順を実行します。

1. SMC *SAMPLIB* の作業コピーを表す新しいデータセットを割り当てます。独自の命名規則を使用し、元の SMC *SAMPLIB* と同じ *LRECL*、*RECFM*、および *DSORG* 値を指定します。[SMC Type 1 の修正のインストール](#)の説明に従って以前にデータセットを割り当てている場合は、そのデータセットを使用できます。

注記:

元の SMC *SAMPLIB* は編集しないでください。

2. SMC *SAMPLIB* メンバーの *SMCUUX09* と *SMC3UX09* を手順 1 で割り振りしたデータセットにコピーします。

SMCUUX09 の先頭にドキュメント化されている手順を調べ、必要なすべての変更を実行します。

注記:

すでに *IATUX09* を使用している場合は、既存のユーザー出口の変更の名前を変更する必要があります。

3. SMC *SAMPLIB* メンバー *SMCJUX09* を編集します。
 - ローカル標準を満たすように *JOB* カードを変更します。
 - *your.jes3.global.csi* を、JES3 グローバル CSI の名前に変更します。
 - *your.usermods* を手順 1 で割り振りしたデータセットの名前に変更します。
 - *jes3-target-zone* を JES3 SMP/E ターゲットゾーン名に変更します。
4. ジョブを送信します。

SMC の JES3 IATUX71 ユーザー出口の修正の作成およびインストール

ライブラリボリュームの JES3 マウントメッセージ (*IAT5210*) の処理を可能にするには、JES3 *IATUX71* ユーザー出口の修正の作成および SMP/E インストールが必要です。

SMC の JES3 IATUX71 ユーザー出口の修正の作成

ライブラリボリュームの JES3 マウントメッセージの処理を可能にするには、JES3 *IATUX71* ユーザー出口のソースおよびユーザー修正の作成が必要です。

JES3 *IATUX71* ユーザー出口の変更を使用すると、JES3 マウントメッセージ *IAT5210* に応答して必要なボリュームをマウントすることが可能になります。このユーザー出口はオプションです。ただし、ライブラリサブシステムのポリシーがマウントのデファー処理を要求しない場合、ライブラリボリュームの JES3 マウントメッセージの処理を可能にするには、このユーザー出口をインストールする必要があります。HSC の場合は、*ALLOC* コマンドパラメータ *DEFER* を *OFF* に設定すると、マウント遅延は要求されません。MVS/CSC の場合は、*DEFER* 起動パラメータを *NO* に設定するか、または *ALTER* コマンドでその値を *NO* にリセットすると、マウント遅延は要求されません。

ユーザー出口の変更の例は、SMC サンプルメンバー *SMCUUX71* に含まれています。

SMC の JES3 IATUX71 ユーザー出口の修正のインストール

JES3 *IATUX71* ユーザー出口の修正を作成したあと、そのユーザー出口の修正の SMP/E インストールが必要です。JES3 ユーザー出口の修正の SMP/E インストールを実行するには、サンプルライブラリメンバー *SMCJUX71* を使用します。

次の例は、*SMCJUX71* に含まれる JCL を示しています。

例4.3 SMCJUX71 JCL

```
//jobname JOB .....
//INSTUX71 EXEC PGM=GIMSMP,REGION=4096K
//SMPCSI DD DSN=your.jes3.global.csi,DISP=SHR
//SMPPTFIN DD DSN=your.usermods,DISP=SHR
//SMPHOLD DD DUMMY
//SMPCNTL DD *
  SET BDY(GLOBAL) .
  RECEIVE S(
    LUSUX71
  ) .
  SET BDY(jes3-target-zone) .
  APPLY S(
    LUSUX71
  ) .
/*
```

次の手順を実行します。

1. SMC *SAMPLIB* の作業コピーになる新しいデータセットを割り当てます。独自のデータセット命名規則を使用して、このデータセットを *RECFM=FB*、*DSORG=PS*、*LRRECL=80* として割り当てます。[SMC Type 1 の修正のインストール](#)の説明に従って以前にセットを割り当てている場合は、そのデータセットを使用できます。

注記:

元の SMC *SAMPLIB* は編集しないでください。

2. SMC *SAMPLIB* メンバーの *SMCUUX71* と *SMC3UX71* を手順 1 で割り振りしたデータセットにコピーします。[SMC の JES3 IATUX71 ユーザー出口の修正の作成およびインストール](#)の指示に従って、*SMC3UX71* の最初にある手順を調べ、必要なすべての変更を実行します。

注記:

すでに *IATUX71* を使用している場合は、既存のユーザー出口の変更の名前を変更する必要があります。

3. SMC *SAMPLIB* メンバー *SMCJUX71* を編集します。
 - ローカル標準を満たすように *JOB* カードを変更します。
 - *your.jes3.global.csi* を、JES3 グローバル CSI の名前に変更します。
 - *your.usermods* を手順 1 で割り振りしたデータセットの名前に変更します。
 - *jes3-target-zone* を JES3 SMP/E ターゲットゾーン名に変更します。
4. ジョブを送信します。

第5章 ELS 追加ソフトウェアのインストール後のタスクの実施

この章では、ELS パッケージに含まれている追加メインフレームソフトウェアのインストール後のタスクについて説明します。次のトピックがあります。

- 「[LCM インストール後のタスク](#)」
- 「[MVS/CSC インストール後のタスク](#)」
- 「[LibraryStation インストール後のタスク](#)」

次に進む前に、2章「[ELS および追加ソフトウェアのインストール](#)」で説明したインストールタスクが終了していることを確認してください

LCM インストール後のタスク

このセクションでは、必要な LCM インストール後のタスクについて説明します。次のトピックがあります。

- 「[LCM ロードライブラリの許可](#)」
- 「[EDI からの HSC CDS の除外](#)」
- 「[LCM インストールの検証](#)」
- 「[LCM Agent のインストールおよび構成 \(オプション\)](#)」
- 「[LCM Explorer のインストール \(オプション\)](#)」

LCM ロードライブラリの許可

LCM は MVS で許可プログラムとして実行する必要があります。したがって、次の手順を実行して、LCM ロードライブラリを APF 許可する必要があります。

1. `SYS1.PARMLIB` の `IEAAPFzz` または `PROGzz` メンバーのどちらかに LCM ロードライブラリを追加します。
2. 「[LCM ロードライブラリの許可](#)」に説明されているコマンドを発行してロードライブラリを許可します。

IEAAPFzz メンバーへの LCM ロードライブラリの追加

LCM ロードライブラリを承認するには、*IEAAPFzz* メンバーに次のエントリを追加します。

your.LCMLINK volser,

このエントリを許可プログラムリストに追加する前に、高位修飾子および *volser* を、使用するシステムに適した値に編集してください。

IEAAPFzz メンバーに複数のエントリが存在する場合は、各エントリ (最後を除く) が、続きを示すコンマで終わっている必要があります。最後のエントリにはコンマは付けません。

注記:

LCM ロードライブラリが SMS 管理対象ボリュームにある場合は、許可されたライブラリエントリにボリュームを指定する必要はありません。この場合、ライブラリが SMS 管理対象であることを示すために、ライブラリ名のあとには何も指定しないでください。間違ったボリュームを指定した場合、そのライブラリは許可できません。

PROGzz メンバーへの LCM ロードライブラリの追加

LCM ロードライブラリを承認するには、*PROGzz* メンバーに次のエントリを追加します。

```
APF ADD
  DSNAME(your.LCMLINK)
  VOLUME(volser) | SMS
```

このエントリを許可プログラムリストに追加する前に、高位修飾子および *volser* を、使用するシステムに適した値に編集してください。

注記:

LCM ロードライブラリが SMS 管理対象ボリュームにある場合は、許可されたライブラリエントリにボリュームを指定する必要はありません。この場合、ライブラリが SMS 管理対象であることを示すために、該当するライブラリ名の後ろにリテラルで「SMS」を指定します。間違ったボリュームを指定した場合、そのライブラリは許可できません。

LCM ロードライブラリの許可

IEAAPFzz または *PROGzz* メンバーへのエントリの追加は、IPL の実行時にライブラリが承認されるようにするために必要です。また、稼働中のシステム上にあるライブラリを動的に許可するには、次の MVS システムコマンドを発行します。

ライブラリが SMS 管理対象の場合:

```
SETPROG APF,ADD,DSN=your.LCMLINK,SMS
```

ライブラリが SMS 管理対象ではない場合:

```
SETPROG APF,ADD,DSN=your.LCMLINK,volser
```

高位修飾子および *volser* を、使用するシステムに適した値に編集してください。

EDI からの HSC CDS の除外

z/OS 1.5 以降の Enhanced Data Integrity (EDI) 機能を使用している場合は、HSC CDS のすべてのコピーを EDI 処理から除外する必要があります。詳細については、インストールされているバージョンの『*DFSMS: Using Data Sets*』を参照するか、*IFGPSEDI PARMLIB* メンバー中の適切なエントリ用 z/OS を参照してください。

LCM インストールの検証

LCM *SAMPLIB* メンバーの *LCMRUN* をカスタマイズして実行し、LCM インストールを検証できます。*LCMRUN* は、LCM の実行に *CHECK* オプションを使用します。これにより、LCM によって LSM、HSC データベース、またはテープ管理システムファイルが変更されなくなります。*CHECK* オプションの詳細は、『*LCM ユーザーズガイド*』を参照してください。*LCMRUN* は LCM の実行にデフォルト管理技法とデフォルトレポートを使用します。

LCMRUN を呼び出す前に、ジョブを次のように変更します。

- システムのテープ管理カタログ (TMC) またはボリュームマスターファイル (VMF) のデータセット名を提供します。
- LCM と HSC の *STEPLIB* DD 文で、使用しているシステムのデータセット名が正しく入力されていることを確認します。
- 検証に使用するパラメータファイルの名前を指定します。[表5.1「*SAMPLIB* メンバーのパラメータファイル](#)」で *SAMPLIB* メンバー用に指定されているファイルの中から、適切な検証用パラメータファイルを選択します。

注記:

実行を効率化するために、32M バイト以上の領域を割り振ることをお勧めしています。大規模な環境には、より大きな領域を指定しなければならない場合があります。

表5.1 SAMPLIB メンバーのパラメータファイル

テープ管理システム	SAMPLIB メンバー
CA-1	LCMVCA1
CA-TLMS	LCMVTLMS
DFSMSrmm	LCMVRMM
TMS CUSTOM	LCMVCUST
TMS COMMON	LCMVCOMM
なし	LCMVNTMS

LCM Agent のインストールおよび構成 (オプション)

このセクションでは、LCM Agent のインストールおよび構成方法について説明します。LCM Agent は、MVS スターテッドタスクで、共有 DASD を使用せずに複数の MVS ホストから TMS 情報にアクセスできます。基本 LCM プログラムは、HSC と同じ MVS ホスト上で実行され、TCP/IP を使用して各ホスト上の LCM Agent と通信します。LCM Agent の各インスタンスは、自身がサービスを提供している MVS ホスト上でスターテッドタスクとして動作します。

LCM Agent をインストールし構成する前に、このガイドの手順に従って LCM 基本プログラムをインストールします。LCM Agent コマンドの詳細については、*LCM ユーザーズガイド*を参照してください。

注意:

LCM バッチジョブを実行しているホストと LCM Agent を実行しているホストのバージョンは同じでなければなりません。LCM 4.0 がインストールされているホスト上にある LCM Agent は、LCM 5.0.0 以降がインストールされているホスト上のバッチジョブに対応していません。

LCM Agent をインストールおよび構成するには:

1. OS/390 eNetwork Communications Server V2R6 以降の場合は、OpenEdition ルートファイルシステムがインストールされていることを確認します。

LCM Agent を使用するには、OpenEdition ルートファイルが全機能モードでインストールされていなければなりません。HFS ルートファイルの作成、*BPXPRMxx* PARMLIB メンバーの変更、およびルートファイルシステムのディレクトリの作成の詳細は、『*IBM Open Edition Planning Guide*』を参照してください。

2. *SAMPLIB* メンバー *LCMCODES* をカスタマイズして、LCM Agent アクセスコードデータセットを作成します。

アクセスコードデータセットが、定義済みの各アクセスコードの情報を取得できるよう許可されているホストのリストを指定していることを確認します。LCM Agent アクセスコードデータセットを作成したあと、アクセスコードに使用する任意の文字列をデータセットに入力します。また、アクセスコードデータセットが、定義済みの各アクセスコードの情報を取得できるよう許可されているホストのリストを指定していることを確認します。LCM Agent のホストと、LCM バッチジョブを実行しているホストの両方に、このデータセットの正確なコピーがなければなりません。LCM バッチジョブは、このアクセスコードを使って LCM Agent と通信します。両ホストのアクセスコードが一致していない場合、リモート TMS 情報へのアクセス方法は LCM Agent によって拒否されます。

3. システムセキュリティソフトウェア (RACF、ACF-2、TopSecret など) を使用して、LCM Agent スタートアップタスクに関連づけられているユーザー ID への参照データセットに *READ* アクセスします。

これらのデータセットには、手順 2 で作成した LCM Agent アクセスコードデータセットと、LCM Agent がアクセスするすべての TMC が含まれます。

さらに、システムセキュリティソフトウェアで次のアクセスを許可します。

- アクセスコードの保守担当者によるアクセスコードデータセットへの *WRITE* アクセス
- LCM ジョブによるアクセスコードデータセットへの *READ* アクセス

SAMPLIB メンバー *LCMAGENT* をカスタマイズして、LCM Agent スタートアップタスク手順を作成します。

詳細は、[LCM Agent スタートアップタスクのパラメータ](#)を参照してください。

注記:

- LCM Agent スタートアップタスクと基本 LCM プログラムのバッチジョブの両方の JCL にセキュリティコードデータセット (DDname *LCMSECUR*) を指定する必要があります。

例:

```
//LCMSECUR DD DSN=<agent access code file>,DISP=SHR
```

- カスタム TMS モジュールインタフェースを使用する場合は、カスタム TMS モジュールを含む正しいロードモジュールを *STEPLIB* ddname に追加します。
- 共有環境で複数の Agent を開始する場合は、各 Agent に固有名が付いたダンプデータセットが必要です。

4. システム *PROCLIB* に Agent スタートアップタスク手順をインストールします。
5. LCM バッチジョブの LCM Agent への接続は、次のいずれかの方法によって行います。
 - 次の TMS 文パラメータを LCM ジョブに指定します。
 - CA1 の場合は、LCM Agent の TMS カタログのデータセット名に *TMCDSN* を付けて識別します。
 - TLMS の場合は、LCM Agent の TMS カタログのデータセット名に *VMFDSN* を付けて識別します。
 - そのほかの TMS タイプの場合は、LCM Agent の TMS カタログのデータセット名に *DSN* を付けて識別します。
 - Explorer で、「TMS」プロパティシートの「Access」タブを使用します。
6. 手順 6 でデフォルトポート (3002) 以外の値を指定している場合は、TCP/IP *ETC* .*SERVICES* ファイルに、使用するポート番号のサービスエントリ (「lcmagent」) を入力します。

例:

```
lcmagent 4096/tcp # LCM Agent
```

7. オプションで、LCM Agent の TCP/IP ポートを LCM Agent 専用に予約する場合は、TCP/IP 構成プロファイルに *PORT* 文を入力します。

ポートの競合を回避するため、このようにすることをお勧めします。次の例の 1 列目は *PORT* 番号です。

PORT

```

7 UDP MISC SERV ; Miscellaneous Server
.
3002 TCP LCMAGENT ; LCM Agent ***** ADD THIS LINE **

```

注記:

実行中の TCP/IP アドレス空間で追加したポート番号を強制的に予約するには、TCP/IP アドレス空間を再起動するか、*OBEYFILE* コマンドまたは *MVS VARY TCPIP* コマンドを使用する必要があります。

8. オプションで、LCM Agent をモニターできるよう TCP/IP アドレス空間を設定します。

この構成の場合、TCP/IP アドレス空間の起動/停止に合わせて LCM Agent スタートアップタスクが自動的に起動/停止するため、これをお勧めします。さらに TCP/IP アドレス空間は定期的に LCM Agent の状態を照会し、アクティブになっていない場合は再起動します。この構成は、TCP/IP 構成プロファイルの *AUTOLOG* 文で設定できます。

例:

AUTOLOG

```

FTP SERVE ; FTP Server
LP SERVE ; LPD Server
NAME SRV ; Domain Name Server
NC PROUT ; NC PROUTE Server
PORT MAP ; Portmap Server
ROUTED ; Routed Server
RX SERVE ; Remote Execution Server
SMTP ; SMTP Server
SNMPD ; SNMP Agent Server
SNMPQE ; SNMP Client
MISC SERV ; Miscellaneous Server
LCMAGENT ; LCM Agent *****ADD THIS LINE *****

```

ENDAUTOLOG

LCM Agent スタートアップタスクのパラメータ

次のリストは、*EXEC* 文で *PARM=* を使用して LCM Agent スタートアップタスク JCL で指定できる実行パラメータについて説明しています。

- *PORT*

このパラメータは、クライアント接続のポート番号を指定します。デフォルトは 3002 です。

- *UPPERCASE*

このパラメータは、大文字でメッセージを入力することを指定します。

- *MODLEVEL*

このパラメータは、LCM Agent のサービスレベルを表示します。

- *MAXCONN*

このパラメータは、同時に確立できるクライアント接続の最大数を指定します。デフォルトは 50 です。

- *LOG(SYSTEM|DD)*

このパラメータは、メッセージのルーティングを指定します。

- *SYSTEM*

このパラメータは、メッセージをシステムコンソールにルーティングします。

- *DD*

このパラメータは、メッセージを ddname *LWSLOG* (デフォルト) にルーティングします。

- *SWAPpable*

このパラメータは、アイドル状態のとき、LCM Agent をスワップできることを指定します。デフォルトはスワップ不能です。

OPTFILE('filename') or OPTFILE(DD:ddname)

LCM Agent の実行パラメータを含む、完全修飾名が指定された MVS データセットまたは MVS ddname を指定します。複数の実行パラメータをコーディングする場合に、この文を指定すると、JCL パラメータ長の制限を無視できます。データ

セット名ではなく ddname をコーディングする場合は、先頭に「DD:」を付ける必要があります。例:

OPTFILE(DD:LCMOPTS)

LCM Explorer のインストール (オプション)

LCM Explorer は *LCMGUI* データセットのメンバー *LCMXPLR* 内に提供されます。LCM Explorer のアップデートは、このメンバーに置き換わる PTF として配布されます。ワークステーションにインストールされている LCM Explorer のビルトレベルは、「Help」メニューの「About LCM Explorer」項目で確認できます。

ワークステーションの LCM Explorer を更新するには:

1. Explorer のアップデートが含まれている LCM PTF を、LCM を実行している MVS ホストにインストールします。
2. Explorer を実行している各 PC に *LCMGUI* データセットの *LCMXPLR* メンバーのコピーを FTP で転送し、メンバー名を *LCMINST.EXE* に変更します。次のように指定してください。

```
ftp <host name>
User: <userid>
Password: <password>
ftp> binary
ftp> get 'LCM.LCMGUI(LCMXPLR)' LCMINST.EXE
ftp> quit
```

3. 各ワークステーションで *LCMINST.EXE* を実行し、セットアップウィザードの手順に従います。

Explorer 構成ファイルライブラリの割り振り

LCM Explorer によって構成ファイルが生成されます。この構成ファイルは、LCM の実行に使用する MVS ホスト上に常駐させる必要があります。構成ファイルを保存するライブラリは PDS でなければなりません。割り当て情報は、*SAMPLIB* メンバー *LCMINSTH* にあります。

Explorer によって送信されたジョブの JCL 手順のインストール

LCM Explorer 7.2 は LCM バッチジョブを送信できます。この機能を使用するには、LCM を呼び出すカタログ式手順を *SYS1.PROCLIB* またはプライベートな *JCLLIB* などの適切な場所に保存する必要があります。サンプル JCL 手順は *SAMPLIB* メンバー *LCMEXEC* で確認できます。

SYS1.PROCLIB (LCMEXEC) 内のカタログ式手順に含まれている JCL には、バッチ LCM アプリケーションを実行するために必要なものと同じ DD 文が含まれている必要があります。これには、*LCMTMSDB* (テープ管理システムカタログ) や *LCMSECUR* (LCM Agent アクセスコードファイル) のほか、SMC 7.2 UII を使用している場合は (SMC 7.2 ライブラリを指す) *SEALINK* DD カードなどの DD 文が含まれます。ただし、これに制限されるわけではありません。

MVS/CSC インストール後のタスク

このセクションでは、必要な MVS/CSC インストール後のタスクについて説明します。次のトピックがあります。

- ・「[MVS/CSC の MVS サブシステムとしての定義](#)」
- ・「[同じ MVS ホストシステムで実行する複数の MVS/CSC サブシステムの定義](#)」
- ・「[MVS/CSC ロードライブラリの許可](#)」
- ・「[MVS/CSC ユーザー出口ライブラリの許可](#)」
- ・「[MVS LINKLIST ライブラリへの SCSBPRI モジュールのコピーまたは移動](#)」
- ・「[MVS プログラム属性テーブルへの MVS/CSC の追加](#)」
- ・「[MVS/CSC のイベントログおよびトレースのデータセットの割り振り](#)」

MVS/CSC の MVS サブシステムとしての定義

MVS/CSC は、プライマリジョブ入力サブシステムのもとでセカンダリサブシステムとして実行されます。

SMC を MVS サブシステムとして定義するには、サブシステム名テーブル (*SYS1.PARMLIB* メンバー *IEFSSNzz*) に、次を識別する行を追加する必要があります。

- ・ MVS/CSC スタートアップタスク手順の手順名に対応する MVS/CSC サブシステム名 (1-4 文字) です。
- ・ MVS/CSC サブシステム初期化ルーチン名。これは、*SCSBPRI* である必要があります。

MVS/CSC サブシステム名を `CSC0` とすると、MVS/CSC をサブシステム名テーブルに正しく追加するには、次の行を追加します。このサンプルエントリは、ELS インストールテープ上の MVS/CSC サンプルライブラリのメンバー `IEFSSNYY` に含まれています。

```
SUBSYS SUBNAME(CSC0) INITRTN(SCSBPREI) /* keyword
```

MVS `SETSSI` コマンドを使用して MVS/CSC サブシステム名を動的に定義することも可能です。例:

```
SETSSI ADD, SUB=CSC0, INITRTN=SCSBPREI
```

ここでは、`CSC0` は MVS/CSC サブシステム名、`SCSBPREI` は MVS/CSC サブシステム初期設定ルーチンです。

注記:

- MVS/CSC サブシステム名を動的に定義していない場合、MVS/CSC サブシステム名のエントリを有効にするには、MVS ホストシステムの IPL を実行する必要があります。
 - MVS メッセージ処理の実行中は、MVS/CSC にはテープ管理システムとの相互作用はありません。このため、HSC サブシステムおよびテープ管理サブシステムの定義の順番は意味がありません。ただし指定された場合は、SMC サブシステムの定義はテープ管理システムのエントリのあとでなくてはなりません。
 - サブシステム名の定義についての詳細は、IBM z/OS の資料を参照してください。
-

同じ MVS ホストシステムで実行する複数の MVS/CSC サブシステムの定義

1 つの MVS ホストシステムで、複数の MVS/CSC サブシステムを実行できます。各 MVS/CSC は、別々の MVS サブシステムとして定義されなければなりません。複数の MVS/CSC サブシステムの実行には、複数の JCL 起動手順、追加される起動パラメータファイル、およびオプションのイベントログ、トレース、および `TAPEREQ` 定義データセットのためのディスクスペースが追加で必要になるだけです。

複数の MVS/CSC をそれぞれ別々のサーバーに接続して実行しようとする場合、次のオペレーティング要件および制限を考慮する必要があります。

- すべての MVS/CSC サブシステムは、実行可能モジュールの単一コピーから実行することもできます。

- 各 MVS/CSC サブシステムには、それぞれ固有の MVS サブシステム定義、カタログ式手順、起動パラメータ、仮想ストレージ、オプションのイベントログ、トレース、および *TAPEREQ* 定義データセットが必要です。
- MVS/CSC ユーザー出口は、各 MVS/CSC サブシステムについて同じバージョンを使用しなくてはなりません。
- オペレータコマンドの接頭文字は、ローカルなオペレーティング設定に応じて、同じでも異なってもかまいません。

注記:

SMC は、ボリュームおよびポリシー情報を使用して MVS/CSC サブシステムに問い合わせ、どのサブシステムが割り振り要求を所有するかを判別します。確認の順序は、SMC *LIBRARY* コマンドの順序によって決まります (指定した場合)。LIBRARY コマンドが指定されていない場合は、SSCVT テーブル内の MVS/CSC の順序が使用されます。

各サブシステムについて次の定義が必要です。

- サーバー接続
- 起動パラメータファイル
- 通信リンク
- MVS/CSC 起動手順

また、各サブシステムについてイベントログおよびトレースデータセットをオプションで定義できます。

起動パラメータに指定された *USERDATA* パラメータのテキストは、それらのユーザー出口に渡されます。このテキストおよびパラメータリスト (ジョブ名、データセット名、およびその他の情報を含みます) を使用すると、そのアクティブな MVS/CSC サブシステムが割り振り要求の所有者と見なされる SMC を指定できます。

注記:

- MVS/CSC ユーザー出口の詳細については、『*ELS Legacy Interfaces Reference*』を参照してください。
 - MVS/CSC 構成に関するタスクについては、『*MVS/CSC Configuration Guide*』を参照してください。
 - MVS/CSC の操作手順に関する情報については、『*MVS/CSC オペレータズガイド*』を参照してください。
-

MVS/CSC ロードライブラリの許可

MVS/CSC は MVS で許可プログラムとして実行する必要があります。したがって、次の手順を実行して、MVS/CSC ロードライブラリを APF 許可する必要があります。

1. *SYS1.PARMLIB* の *IEAAPFzz* メンバーまたは *PROGzz* メンバーのどちらかに MVS/CSC ロードライブラリを追加します。
2. 「[MVS/CSC ロードライブラリの許可](#)」に説明されているコマンドを発行してロードライブラリを許可します。

IEAAPFzz メンバーへの MVS/CSC ロードライブラリの追加

MVS/CSC ロードライブラリを承認するには、*IEAAPFzz* メンバーに次のエントリを追加します。

```
your.SCSLINK volser,  
your.SACLINK volser,  
your.CSLLINK volser,
```

これらのエントリを許可プログラムリストに追加する前に、高位修飾子および *volser* を、使用するシステムに適した値に編集してください。

IEAAPFzz メンバーに複数のエントリが存在する場合は、各エントリ (最後を除く) が、続きを示すコンマで終わっている必要があります。最後のエントリにはコンマは付けません。

注記:

- MVS/CSC ロードライブラリが SMS 管理対象ボリュームにある場合は、許可ライブラリエントリにボリュームを指定する必要はありません。この場合、ライブラリが SMS 管理対象であることを示すために、ライブラリ名のあとには何も指定しないでください。間違ったボリュームを指定した場合、そのライブラリは許可できません。
- CA Unicenter TCPAccess 通信サーバーを使用している場合は、*TCPLINK* ロードライブラリが必要です。

```
your.TCPLINK volser,
```

詳細については、CA の資料を参照してください。IBM TCP/IP を使用している場合はこのロードライブラリは必要ありません。

PROGzz メンバーへの MVS/CSC ロードライブラリの追加

MVS/CSC ロードライブラリを承認するには、*PROGzz* メンバーに次のエントリを追加します。

```
APF ADD
  DSNAME(your.SCSLINK)
  VOLUME(volser) | SMS
APF ADD
  DSNAME(your.SACLINK)
  VOLUME(volser) | SMS
APF ADD
  DSNAME(your.CSLLINK)
  VOLUME(volser) | SMS
```

これらのエントリを許可プログラムリストに追加する前に、高位修飾子および *volser* を、使用するシステムに適した値に編集してください。

注記:

- MVS/CSC ロードライブラリが SMS 管理対象ボリュームにある場合は、許可ライブラリエントリにボリュームを指定する必要はありません。この場合、ライブラリが SMS 管理対象であることを示すために、該当するライブラリ名の後ろにリテラルで「SMS」を指定します。間違ったボリュームを指定した場合、そのライブラリは許可できません。
- CA Unicenter TCPAccess 通信サーバーを使用している場合は、*TCPLINK* ロードライブラリが必要です。

```
APF ADD      DSNAME(your.TCPLINK)    VOLUME(volser) | SMS
```

詳細については、CA の資料を参照してください。IBM TCP/IP を使用している場合はこのロードライブラリは必要ありません。

MVS/CSC ロードライブラリの許可

IEAAPFzz または *PROGzz* メンバーへのエントリの追加は、IPL の実行時にライブラリが承認されるようにするために必要です。また、稼働中のシステム上にあるライブラリを動的に許可するには、次の MVS システムコマンドを発行します。

ライブラリが SMS 管理対象の場合:

```
SETPROG APF,ADD,DSN=your.SCSLINK,SMS
SETPROG APF,ADD,DSN=your.SACLINK,SMS
SETPROG APF,ADD,DSN=your.CSLLINK,SMS
```

ライブラリが SMS 管理対象ではない場合:

```
SETPROG APF,ADD,DSN=your.SCSLINK,volser
SETPROG APF,ADD,DSN=your.SACLINK,volser
SETPROG APF,ADD,DSN=your.CSLINK,volser
```

MVS/CSC ユーザー出口ライブラリの許可

MVS/CSC ユーザー出口ライブラリは、MVS/CSC ロードライブラリと同じライブラリでも、異なるライブラリでも許可されます。MVS/CSC ユーザー出口ライブラリが MVS/CSC ロードライブラリとは別のライブラリの場合は、次の手順を実行して、MVS/CSC ユーザー出口ロードライブラリを APF 許可する必要があります。

1. *SYS1.PARMLIB* の *IEAAPFzz* または *PROGzz* メンバーのどちらかに MVS/CSC ユーザー出口ロードライブラリを追加します。
2. 「[MVS/CSC ユーザー出口ロードライブラリの許可](#)」に説明されているコマンドを発行してロードライブラリを許可します。

IEAAPFzz メンバーへの MVS/CSC ユーザー出口ロードライブラリの追加

MVS/CSC ユーザー出口ロードライブラリを承認するには、*IEAAPFzz* メンバーに次のエントリを追加します。

```
your.SCSLINK    volser,
your.CSC_USEREXIT.LOAD    volser,
```

これらのエントリを許可プログラムリストに追加する前に、高位修飾子および *volser* を、使用するシステムに適した値に編集してください。

IEAAPFzz メンバーに複数のエントリが存在する場合は、各エントリ (最後を除く) が、続きを示すコンマで終わっている必要があります。最後のエントリにはコンマは付けません。

注記:

MVS/CSC ユーザー出口ロードライブラリが SMS 管理対象ボリュームにある場合は、許可されたライブラリエントリにボリュームを指定する必要はありません。この場合、ライブラリが SMS 管理対象であることを示すために、ライブラリ名のあとには何も指定しないでください。間違ったボリュームを指定した場合、そのライブラリは許可できません。

PROGzz メンバーへの MVS/CSC ユーザー出口ロードライブラリの追加

MVS/CSC ユーザー出口ロードライブラリを承認するには、*PROGzz* メンバーに次のエントリを追加します。

```
APF ADD      DSNNAME(your.SCSLINK)    VOLUME(volser) | SMSAPF ADD      DSNNAME(your.CSC
_USEREXIT.LOAD)    VOLUME(volser) | SMS
```

このエントリを許可プログラムリストに追加する前に、高位修飾子および *volser* を、使用するシステムに適した値に編集してください。

注記:

MVS/CSC ユーザー出口ロードライブラリが SMS 管理対象ボリュームにある場合は、許可されたライブラリエントリにボリュームを指定する必要はありません。この場合、ライブラリが SMS 管理対象であることを示すために、該当するライブラリ名の後ろにリテラルで「SMS」を指定します。間違ったボリュームを指定した場合、そのライブラリは許可できません。

MVS/CSC ユーザー出口ロードライブラリの許可

IEAAPFzz または *PROGzz* メンバーへのエントリの追加は、IPL の実行時にライブラリが承認されるようにするために必要です。また、稼働中のシステム上にあるライブラリを動的に許可するには、次の MVS システムコマンドを発行します。

ライブラリが SMS 管理対象の場合:

```
SETPROG APF,ADD,DSN=your.CSC_USEREXIT.LOAD,SMS
```

ライブラリが SMS 管理対象ではない場合:

```
SETPROG APF,ADD,DSN=your.CSC_USEREXIT.LOAD,volser
```

高位修飾子および *volser* を、使用するシステムに適した値に編集してください。

MVS LINKLIST ライブラリへの SCSBPRI モジュールのコピーまたは移動

SCSLINK ライブラリ内に存在する MVS/CSC サブシステム初期化前ルーチンモジュール (*SCSBPREI*) は、*MVS LINKLIST* ライブラリ内にも存在する必要があります。*SCSBPREI* モジュールは、*SCSLINK* から *LINKLIST* ライブラリにコピーまたは移動できます。

SCSBPREI 初期化前ルーチンモジュールは、MVS/CSC リリース間で機能的に互換性があります。ただし、将来の互換性のために、*SCSBPREI* 初期化前モジュールの最新のリリースを使用してください。

MVS プログラム属性テーブルへの MVS/CSC の追加

MVS プログラム属性テーブル (PPT) を修正して、MVS/CSC サブシステムに関するエントリを追加する必要があります。

注記:

MVS/CSC の実行には、(1-7 の) ローキーを使用する必要があります。このセクションの例では、キー 3 を使用しています。キー 8-15 を使用すると、予測できない結果が生じます。

SYSL.PARMLIB のメンバー *SCHEDzz* に次のエントリを追加します。

```
PPT PGMNAME(SCSBINIT),PRIV,SYST,KEY(3)
```

MVS/CSC のイベントログおよびトレースのデータセットの割り振り

イベントログデータセットは、MVS/CSC のイベントログ機能によってログ出力されたイベントを記録するために使用できます。トレースデータセットは、MVS/CSC のトレース機能によって出力されたトレースを記録するために使用します。MVS/CSC のイベントログ機能およびトレース機能を使用する場合は、これらの機能を使用して生成された出力を記録するように、イベントログおよびトレースデータセットを割り振る必要があります。次の表に、望ましいサイズの定義を示します。ブロックとして記載された数値は、データセットに必要とされる最小値です。

MVS/CSC のイベントログおよびトレース機能についての詳細は、『*MVS/CSC 構成ガイド*』および『*MVS/CSC システムプログラマズガイド*』を参照してください。

次の表は、MVS/CSC のトレースおよびイベントログのデータセットを示しています。

表5.2 MVS/CSC のトレースおよびイベントログのデータセット

データセット名	DSORG	RECFM	LRECL	BLKSIZE	トラック	ディレクトリブロック数
TRACE	PS	VB	3076	1000	2000	N/A

データセット名	DSORG	RECFM	LRECL	BLKSIZE	トラック	ディレクトリブロック数
EVENT LOG	PS	VB	3076	1000	2000	N/A

LibraryStation インストール後のタスク

この章では、LibraryStation インストール後の必要なタスクについて説明します。次のトピックがあります。

- 「[LibraryStation ロードライブラリの許可](#)」
- 「[永続データファイルの定義 \(オプション\)](#)」

LibraryStation ロードライブラリの許可

LibraryStation は MVS で許可プログラムとして実行する必要があります。したがって、次の手順を実行して、LibraryStation ロードライブラリを APF 許可する必要があります。

1. `SYS1.PARMLIB` の `IEAAPFzz` または `PROGzz` メンバーのどちらかに LibraryStation ロードライブラリを追加します。
2. 「[LibraryStation ロードライブラリの許可](#)」に説明されているコマンドを発行してロードライブラリを許可します。

IEAAPFzz メンバーへの LibraryStation ロードライブラリの追加

LibraryStation ロードライブラリを承認するには、`IEAAPFzz` メンバーに次のエントリを追加します。

```
your.SLCLINK volser
your.SACLINK volser
your.CSLLINK volser
```

これらのエントリを許可プログラムリストに追加する前に、高位修飾子および `volser` を、使用するシステムに適した値に編集してください。

`IEAAPFzz` メンバーに複数のエントリが存在する場合は、各エントリ (最後を除く) が、続きを示すコンマで終わっている必要があります。最後のエントリにはコンマは付けません。

注記:

- LibraryStation ロードライブラリが SMS 管理対象ボリュームにある場合は、許可されたライブラリエンTRIESにボリュームを指定する必要はありません。この場合、ライブラリが SMS 管理対象であることを示すために、ライブラリ名のあとには何も指定しないでください。間違ったボリュームを指定した場合、そのライブラリは許可できません。
- TCP/IP 通信に CA Unicenter TCPaccess 通信サーバーを使用している場合、TCPLINK ロードライブラリが必要です。

your.TCPLINK volser,

詳細については、CA の資料を参照してください。IBM TCP/IP を使用している場合はこのロードライブラリは必要ありません。

PROGzz メンバーへの LibraryStation ロードライブラリの追加

LibraryStation ロードライブラリを承認するには、*PROGzz* メンバーに次のエンTRIESを追加します。

```
APF ADD      DSNAME(your.SLCLINK)      VOLUME(volser) | SMSAPF ADD      DSNAME(your.SACLINK)
VOLUME(volser) | SMSAPF ADD      DSNAME(your.CSLLINK)      VOLUME(volser) | SMS
```

これらのエンTRIESを許可プログラムリストに追加する前に、高位修飾子および *volser* を、使用するシステムに適した値に編集してください。

注記:

- LibraryStation ロードライブラリが SMS 管理対象ボリュームにある場合は、許可されたライブラリエンTRIESにボリュームを指定する必要はありません。この場合、ライブラリが SMS 管理対象であることを示すために、該当するライブラリ名の後ろにリテラルで「SMS」を指定します。間違ったボリュームを指定した場合、そのライブラリは許可できません。
- CA Unicenter TCPaccess 通信サーバーを使用している場合は、*TCPLINK* ロードライブラリが必要です。

```
APF ADD      DSNAME(your.TCPLINK)      VOLUME(volser) | SMS
```

詳細については、CA の資料を参照してください。IBM TCP/IP を使用している場合はこのロードライブラリは必要ありません。

LibraryStation ロードライブラリの許可

IEAAPFzz または PROGzz メンバーへのエントリの追加は、IPL の実行時にライブラリが承認されるようにするために必要です。また、稼働中のシステム上にあるライブラリを動的に許可するには、次の MVS システムコマンドを発行します。

ライブラリが SMS 管理対象の場合:

```
SETPROG APF,ADD,DSN=your.SLCLINK,SMSSETPROG APF,ADD,DSN=your.SACLINK,SMSSETPROG  
APF,ADD,DSN=your.CSLLINK,SMS
```

ライブラリが SMS 管理対象ではない場合:

```
SETPROG APF,ADD,DSN=your.SLCLINK,volser  
SETPROG APF,ADD,DSN=your.SACLINK,volser  
SETPROG APF,ADD,DSN=your.CSLLINK,volser
```

永続データファイルの定義 (オプション)

LibraryStation のソフトウェアには、LibraryStation の初期設定の間に初期設定されるデータベースマネージャー (DBM) も含まれます。DBM は、リソースロックやデバイスステータスなど、HSC によって保守されないいくつかの永久データオブジェクトを管理します。

DBM 管理対象のデータオブジェクトは、1 つまたは複数の VSAM ファイルに格納されます。これらのファイルを総称して永続データファイル (PDF) と呼びます。PDF には、ボリュームレコード、ドライブレコードおよび lockid レコードが入っています。

注記:

- LibraryStation の以前のリリースから移行する場合は、既存の PDF を削除し、新規のリリースのために新たに PDF を定義する必要があります。
 - LibraryStation が異種のクライアント (たとえば MVS 以外のクライアント) にサービスを提供している場合、PDF の定義が必要です。LibraryStation が Sysplex 環境で MVS クライアントにサービスを提供している場合は、PDF の定義を行わないでください。PDF は、Sysplex 環境ではサポートされません。PDF については、『LibraryStation Configuration and Administration Guide』を参照してください。
 - 複数の LibraryStation を実行する場合、PDF に関する注意については、『LibraryStation Configuration and Administration Guide』を参照してください。
-

LibraryStation が異種のクライアントにサービスを提供する場合、PDF の定義が必要です。PDF のデータセットを定義するには、*IDCAMS* を使用します。

次の例では、PDF のデータセットを定義する JCL を示します。この JCL は LibraryStation サンプルライブラリの *SLGDBCR* メンバーにあります。

例5.1 LibraryStation PDF データセットを定義する JCL

```
//SLGDBCR JOB job card info,REGION=1M
/*
/* NOTE: A minimum of 1 Meg of virtual storage is needed
/*      for this job (i.e., use REGION=1M on the job card)
/*
//CREATEDB EXEC PGM=IDCAMS
//SYSPRINT DD SYSOUT=*
//INPUT DD *
000000000000 DB INITIALIZATION RECORD
//SYSIN DD *
  DELETE (cluster_name) CLUSTER
  DEFINE CLUSTER (
    NAME(cluster_name)
    VOLUMES(volser)
    RECORDS(nr,2*nr)
    RECORDSIZE(30 100)
    KEYS(12 0)
    UNIQUE )
  REPRO INFILE(INPUT)
    OUTDATASET(cluster_name)
  DEFINE ALTERNATEINDEX (
    NAME(alternate_index_name)
    RELATE(cluster_name)
    KEYS(10 2)
    RECORDS(nr,2*nr)
    RECORDSIZE(27 27)
    VOLUMES(volser)
    UNIQUEKEY
    UNIQUE
    UPGRADE )
  DEFINE PATH (
    NAME(path_name)
    PATHENTRY(alternate_index_name))
  BLDINDEX
    INDATASET (cluster_name)
    OUTDATASET (alternate_index_name)
  LISTCAT ENTRIES (
    cluster_name
    alternate_index_name
    path_name) ALL
/*
```

次の情報については、提供または修正が必要です。

- ジョブカード情報
- PDF のデータセット名
- PDF のボリュームロケーション

- レコードキーワードの値

PDF のデータセット名

入力するデータセット名は、次の表に示したリストに従う必要があります。

表5.3 PDF のデータセット名

NAME キーワード	説明
CLUSTER	<i>SLSPDF</i> ベースクラスタの名前 (<i>cluster_name</i>)。 <i>LSTAT.PDF</i> など。
ALTERNATEINDEX	<i>SLSPDFX</i> 代替インデックスの名前 (<i>alternate_index_name</i>)。 <i>LSTAT.PDFAIX</i> など。
PATH	<i>SLSPDFX</i> のパスの名前 (<i>path_name</i>)。 <i>LSTAT.PDFPATH</i> など。

注記:

データセットの名前に関しては、命名規則は事前定義されていません。これら 3 つのデータセットに同じ接頭文字を使用でき、それぞれの名前には固有のファイルタイプを割り当てることができます。

ボリュームのロケーション

LibraryStation には 1 つの PDF が定義されます。LibraryStation の初期設定済みのホストシステムでは、PDF がある DASD ボリュームへのアクセスができなければなりません。このため、複数のホストが存在し、2 台以上のホストが LibraryStation の初期設定ができる環境では、初期設定を行う各ホストにアクセスできる共有 DASD に PDF がなければいけません。

利用可能な DASD であれば、どの DASD にも PDF を割り振ることができます。DASD はその volser によって特定されます。

レコードキーワードの値

下に示す PDF のレコードスペースの計算 (*nr*) は、すべてのクライアントシステムが同時にロックした可能性のあるボリュームの最大数 (*nv*) と、ネットワーククライアントによって使用されるテープカートリッジドライブの総数 (*nd*) に基づいています。

レコード数 (nr) = $(nv + nd) * 1.1$

セカンダリ PDF のスペースの割り振りは、レコード数の 2 倍 ($2*nr$) と計算されます。

LibraryStation インストールのほとんどの場合、適切な設定レコード数は、プライマリレコードは 2000、セカンダリレコードは 4000 です。しかし、特定のインストールに関するレコードを検証する場合は、サイトのボリューム数とネットワーククライアントデータで割り振り方法を使います。

付録A ELS サンプル、モジュール、およびマクロ

この付録では、ELS パッケージに含まれているサンプル、ソースコードモジュール、ロードモジュール、およびマクロのリストを示します。次のトピックがあります。

- [「ELS のサンプル、ソースコードモジュール、およびマクロ」](#)
- [「LCM のサンプル」](#)
- [「MVS/CSC のサンプルおよびマクロ」](#)
- [「LibraryStation のサンプルおよびソースコードモジュール」](#)

ELS インストールに使用する JCL サンプルについては、[「SMP/E JCL ライブラリのアンロード」](#)を参照してください。

注記:

ELS インストールに使用する JCL サンプルについては、[「SMP/E JCL ライブラリのアンロード」](#)を参照してください。

ELS のサンプル、ソースコードモジュール、およびマクロ

このセクションでは、ELS インストールテープまたは CD-ROM に含まれている ELS のサンプル、ソースコードモジュール、およびマクロについて説明します。

ELS のサンプル

次の表では、ELS のサンプルメンバーについて説明します。

表A.1 ELS のサンプル

メンバー名	説明
GTFEXTR	単一ジョブの SMC トレースの抽出のサンプル
GTFLMU	LMU 要求をトレースする MVS 2.X PARMLIB メンバーのサンプル
GTFPARMS	SMC トレースの GTF パラメータのサンプル

メンバー名	説明
GTFPROC	GTF 起動 JCL のサンプル
IEAAPFZZ	SMC APF リストエントリのサンプル
IEFSSNZZ	SMC サブシステム名テーブルエントリのサンプル
INSTUXIT	SMP/E 管理対象ユーザー出口をインストールする SMP/E のサンプル
LIBGNJCL	LIBGEN ソースファイルのアセンブルおよびリンクを行う JCL のサンプル
MSGMPFUX	MPF ユーザー出口のサンプル
POLCVT01	POLCVT メンバーのサンプル
POLCVT02	POLCVT REXX データセットプログラムのサンプル
PROGZZ	ELS APF リストエントリのサンプル
SCHEDZZ	ELS の MVS プログラム属性テーブル (PPT) エントリのサンプル
SENDEL	SEN マクロインタフェースプログラムのサンプル
SENDISA	SEN マクロインタフェースプログラムのサンプル

ELS のソースコードモジュール

次の表では、ELS のソースコードモジュールメンバーについて説明します。

表A.2 ELS のソースコードモジュール

メンバー名	説明
SENASA	SEN マクロインタフェースプログラムのサンプル
SENEXIT	SEN ユーザー出口のサンプル
SENQRST	SEN マクロインタフェースプログラムのサンプル
SLSSYS00	HSC 起動パラメータファイルのサンプル
SLSUX03	スクラッチサブプールのユーザー出口のデフォルト
SLSUX05	プログラマチックインタフェース (PGMI) ユーザー出口のデフォルト
SLSUX06	データベース挿入/削除ユーザー出口のデフォルト
SLSUX14	ボリュームアクセスユーザー出口のデフォルト

メンバー名	説明
SLSUX15	コマンド許可ユーザー出口のデフォルト
SLUCONDB	スクラッチ変換ユーティリティのソースコード
SMC3UX09	SMC JES3 IATUX09 ユーザー出口のソースのサンプル
SMC3UX71	SMC JES3 IATUX71 ユーザー出口のソースのサンプル
SMCCMDS	SMCCMDS DD 文のコマンドファイルのサンプル
SMCJRSLA	SMCERSLV のアセンブリおよびリンクを行う JCL のサンプル (JES3 のみ)
SMCJRSLV	SMCERSLV のための UCLIN を実行する JCL のサンプル (JES3 のみ)
SMCJTYP1	SMC Type 1 の修正をインストールする SMP/E の JCL のサンプル (JES3 のみ)
SMCJUX09	SMC IATUX09 ユーザーの修正をインストールする SMP/E の JCL のサンプル (JES3 のみ)
SMCJUX71	SMC IATUX71 ユーザーの修正をインストールする SMP/E の JCL のサンプル (JES3 のみ)
SMCPARMS	SMCPARMS DD 文のパラメータファイルのサンプル
SMCPROC	起動 JCL のサンプル
SMCUIICM	IATIICM Type 1 の修正のサンプル (JES3 のみ)
SMCUIIP1	IATIIP1 Type 1 の修正のサンプル (JES3 のみ)
SMCUMDAL	IATMDAL Type 1 の修正のサンプル (JES3 のみ)
SMCUMDFE	IATMDFE Type 1 の修正のサンプル (JES3 のみ)
SMCUUX09	SMC JES3 IATUX09 ユーザー修正のサンプル (JES3 のみ)
SMCUUX71	SMC JES3 IATUX71 ユーザー修正のサンプル (JES3 のみ)
SMFPRMXX	HSC SMF レコードサブタイプの PARMLIB 定義のサンプル
UX06SAM1	テープ管理システムとのインタフェースを行う HSC ユーザー出口 06 のサンプル

ELS のマクロ

次の表では、ELS のマクロについて説明します。

表A.3 ELS のマクロ

メンバー名	説明
ACSRQ	ACS 要求のためのパラメータリストのフォーマット
NCSCOMM	NCSCOMM パラメータリスト
NCSUUI	NCS UUI 呼び出しサービス
NUUIIA	NCS UUI インタフェース域
SLSUX01P	HSC 形式ユーザー出口 01 のパラメータリスト
SLSUX02P	HSC 形式ユーザー出口 02 のパラメータリスト
SLSUX04P	HSC 形式ユーザー出口 04 のパラメータリスト (JES3 のみ)
SLSUX08P	HSC 形式ユーザー出口 08 のパラメータリスト
SLSUX09P	HSC 形式ユーザー出口 09 のパラメータリスト
SLSUX10P	HSC 形式ユーザー出口 10 のパラメータリスト
SLSUX11P	HSC 形式ユーザー出口 11 のパラメータリスト (JES3 のみ)
SLSUX12P	HSC 形式ユーザー出口 12 のパラメータリスト (JES3 のみ)
SLSUX13P	HSC 形式ユーザー出口 13 のパラメータリスト (JES3 のみ)
SCSUX01P	MVS/CSC 形式ユーザー出口 01 のパラメータリスト
SCSUX02P	MVS/CSC 形式ユーザー出口 02 のパラメータリスト
SCSUX04P	MVS/CSC 形式ユーザー出口 04 のパラメータリスト (JES3 のみ)
SCSUX08P	MVS/CSC 形式ユーザー出口 08 のパラメータリスト
SCSUX09P	MVS/CSC 形式ユーザー出口 09 のパラメータリスト
SCSUX10P	MVS/CSC 形式ユーザー出口 10 のパラメータリスト
SCSUX11P	MVS/CSC 形式ユーザー出口 11 のパラメータリスト (JES3 のみ)
SCSUX12P	MVS/CSC 形式ユーザー出口 12 のパラメータリスト (JES3 のみ)
SCSUX13P	MVS/CSC 形式ユーザー出口 13 のパラメータリスト (JES3 のみ)
SLIACS	LIBGEN SLIACS マクロ
SLIALIST	LIBGEN SLIALIST マクロ

メンバー名	説明
SLICOV	定数と変数の大域構成
SLIDLIST	LIBGEN SLIDLIST マクロ
SLIDRIVS	LIBGEN SLIDRIVS マクロ
SLIENDGN	LIBGEN SLIENDGN マクロ
SLIERMSG	LIBGEN エラーメッセージマクロ
SLILBACS	LIBGEN ACS 領域
SLILBALS	LIBGEN ACLIST 領域
SLILBDLS	LIBGEN DRIVELST 領域
SLILBDRV	LIBGEN DRIVES 領域
SLILBEND	LIBGEN ENDGEN 領域
SLILBLIB	LIBGEN LIBRARY 領域
SLILBLSM	LIBGEN LSM 領域
SLILBREC	LIBGEN RECOVERY 領域
SLILBSTA	LIBGEN STATION 領域
SLILCV	インストール LCT 定数 / 変数
SLILIBRY	LIBGEN LIBRARY マクロ
SLILSM	LIBGEN LSM マクロ
SLIPTPCK	LIBGEN SLIPTPCK マクロ
SLIRCVRY	LIBGEN RECOVERY マクロ
SLISTATN	LIBGEN STATION マクロ
SLSDILLT	LIBGEN LOCATION タイプ
SLSDVAR	配布ボリューム属性レコード長
SMCEHOOK	SMC Type 1 修正マクロ (JES3 のみ)
SMCEMFLD	JES3 マクロフィールド解決ブロック (SMCERSLV で使用) (JES3 のみ)
SLSSBLOG	INIT/TERM LOGREC レコード
SLSSBLOS	LSM 動作統計データ域
SLSSCAPI	CAP SMF EJECT レコード

メンバー名	説明
SLSSCAPN	CAP SMF ENTER レコード
SLSSDJLR	LOGREC マップのジャーナルを作成するデータベース
SLSSFHDR	SMF レコードヘッダー
SLSSHLG1	ホスト通信 LOGREC フォーマット 1
SLSSLHDR	LOGREC レコードヘッダーマップ
SLSSLLG1	LMU ドライバ LOGREC フォーマット 1
SLSSLLG2	LMU ドライバ LOGREC フォーマット 2
SLSSLLG3	LMU ドライバ LOGREC フォーマット 3
SLSSLLG4	LMU ドライバ LOGREC フォーマット 4
SLSSLLG5	LMU ドライバ LOGREC フォーマット 5
SLSSLLG6	LMU ドライバ LOGREC フォーマット 6
SLSSLSB	LMU ATHS 統計バッファ
SLSSMF07	HSC フォーマット 7 SMF レコード
SLSSMF08	HSC フォーマット 8 SMF レコード
SLSSMF09	HSC フォーマット 9 SMF レコード
SLSSMF10	HSC フォーマット 10 SMF レコード
SLSSMF11	HSC フォーマット 11 SMF レコード
SLSSMF12	HSC フォーマット 12 SMF レコード
SLSSMF13	HSC フォーマット 13 SMF レコード
SLSSMF14	HSC フォーマット 14 SMF レコード
SLSSMF15	HSC フォーマット 15 SMF レコード
SLSSMF16	HSC フォーマット 16 SMF レコード
SLSSMF17	HSC フォーマット 17 SMF レコード
SLSSMF18	HSC フォーマット 18 SMF レコード
SLSSMF19	HSC フォーマット 19 SMF レコード
SLSSMF20	HSC フォーマット 20 SMF レコード
SLSSMF21	HSC フォーマット 21 SMF レコード
SLSSMF22	HSC フォーマット 22 SMF レコード

メンバー名	説明
SLSSMF23	HSC フォーマット 23 SMF レコード
SLSSMF24	HSC フォーマット 24 SMF レコード
SLSSMF25	HSC フォーマット 25 SMF レコード
SLSSMF26	HSC フォーマット 26 SMF レコード
SLSSMF27	HSC フォーマット 27 SMF レコード
SLSSMF28	HSC フォーマット 28 SMF レコード
SLSSMF29	HSC フォーマット 29 SMF レコード
SLSSMF30	HSC フォーマット 30 SMF レコード
SLSSMF31	HSC フォーマット 31 SMF レコード
SLSSMF32	HSC フォーマット 32 SMF レコード
SLSSMF33	HSC フォーマット 33 SMF レコード
SLSSMLSM	LSM SMF レコードサブタイプマップの修正
SLSSPSWI	プライマリ/シャドウスイッチ LOGREC レコード
SLSSRL00	回復 ERDS レコード 0
SLSSRL01	回復 ERDS レコード 1
SLSSVLG1	VOL/CELL 強制選択解除レコード
SLSSVSTA	VARY ステーション SMF レコードサブタイプマップ
SLSUREQ	バッチ API 要求プロセッサ
SLSSUREQM	バッチ API インタフェースマッピングマクロ
SLSUX03P	HSC ユーザー出口 03 パラメータリスト
SLSUX05P	HSC ユーザー出口 05 パラメータリスト
SLSUX06P	HSC ユーザー出口 06 パラメータリスト
SLSUX14P	HSC ユーザー出口 14 パラメータリスト
SLSUX15P	HSC ユーザー出口 15 パラメータリスト
SLSXB2X	8 ビット形式から 16 ビット形式への変換
SLSSWMSG	HSC によって発行された WTO タイプのメッセージに書き込まれた logrec レコードのマップ
SLSXREQ	ACS 要求の発行

メンバー名	説明
SLSXREQM	ACS ユーザーインタフェースマッピングマクロ
SLSXSEN	HSC 重要イベント通知 (SEN) 要求
SLSXSENM	重要イベント通知 (SEN) 要求 PARM リストマップ
SLUDRINF	TMS DB Read パラメータリスト
SLUVADAT	フラットファイル ACS/LSM 情報 DSECT
SLUVCDAT	フラットファイル静的構成データ DSECT
SLUVDDAT	QCDS ドライブ情報 DSECT
SLUVHDAT	フラットファイルホスト情報 DSECT
SLUVIDAT	フラットファイル CDS 情報 DSECT
SLUVMDAT	フラットファイル MVC データ DSECT
SLUVPDAT	QCDS CAP 情報 DSECT
SLUVSDAT	フラットファイル ACS ステーションアドレス DSECT
SLUVTDAT	フラットファイル VTV データ DSECT
SLUVVDAT	フラットファイルボリュームデータ DSECT
SLX	HSC 外部インタフェース応答
SWSPGMIA	VTCS PGMI インタフェース域 (VTCS のみ)

LCM のサンプル

次の表は、ELS インストールテープや CD-ROM に収められている LCM のサンプルおよびマクロのリストです。

表A.4 LCM のサンプル

メンバー名	説明
LCMAGENT	サンプル LCM Agent スタートアップタスク手順
LCMAPFXX	サンプル LCM 許可ライブラリリストエントリ
LCMCGI	TMS OPEN ホストのサンプル CGI スクリプト
LCMCHGS	PTF として、リリースの累積的なドキュメントの変更を適用
LCMCODES	サンプル LCM Agent アクセスコードファイル

メンバー名	説明
LCMEXEC	LCM Explorer によって送信されたジョブ、およびインストール時に送信されたその他の LCM ジョブで使用する JCL 手順のサンプル。LCMEXEC がインストール時にすべての LCM の実行に共通の項目を事前定義します。 たとえば、LCM がリンクリストまたは LPA リストに含まれていないライブラリにインストールされる場合、LCMEXEC には本番 LCM ロードライブラリを指す STEPLIB が必要です。 大部分の LCM ジョブによって動的に割り振りされる DD 文、またはある LCM ジョブとその次とで異なる DD 文は、LCMEXEC に含めないでください。
LCMINDEX	LCM サンプルライブラリの索引
LCMKST	各拡張フィールドの主要値を記録。LCMKST には、すべての拡張フィールドの等価値のリストが含まれます。すべての拡張フィールドには、0 よりも大きいキーが関連付けられます。
LCMMTHF	メソッドファイルレコードのレイアウトを定義するマクロ。詳細については、 <i>LCM ユーザーズガイド</i> の METHODFILE レコードに関する説明を参照してください。
LCMRPMAC	RHSC/UII インタフェースの LCMRHSC レコード/再生
LCMRUN	LCM 実行用サンプル JCL
LCMTIDR	サンプル TMS インタフェース定義応答 xml ドキュメント
LCMTMCI	LCM TMC 情報レコードのレイアウト定義用マクロ
LCMTTIR	サンプル TMS テープ情報応答 xml ドキュメント
LCMUX01P	LCM TMS CUSTOM インタフェースが使用するパラメータリストを定義するマクロ。詳細については、 <i>LCM ユーザーズガイド</i> の TMS CUSTOM インタフェースモジュールパラメータに関する説明を参照してください。
LCMUX01S	LCM TMS CUSTOM インタフェースで使用するアセンブラプログラムのサンプル

メンバー名	説明
LCMVAUTM	Automedia を使用する IVP 用 LCM パラメータファイル
LCMVCA1	CA-1 を使用する IVP 用 LCM パラメータファイル
LCMVCOMM	共通フォーマットの TMS 抽出ファイルを使用する IVP 用 LCM パラメータファイル
LCMVCONT	Control-T を使用する IVP 用 LCM パラメータファイル
LCMVCUST	LCM カスタムテープ管理システムインタフェースを使用する IVP 用 LCM パラメータファイル (テープ管理システムベンダーが提供するユーザー出口が必要)
LCMVNTMS	TMS を使用しない IVP 用 LCM パラメータファイル
LCMVRMM	DFSMSrmm を使用する IVP 用 LCM パラメータファイル
LCMVTLMS	CA-TLMS を使用する IVP 用 LCM パラメータファイル
LCMXDMD	デマンド (またはシフト) 実行用 LCM パラメータファイル
LCMXDVLD	特殊なデータセットを使用したボルト実行用 LCM パラメータファイル
LCMXDVLS	複数サブプールを使用したボルト実行用 LCM パラメータファイル
LCMXDVLT	日次ボルト実行用 LCM パラメータファイル
LCMXRAC1	アクション後レポート用 LCM パラメータファイル
LCMXREJ1	イジェクトレポート用 LCM パラメータファイル (データセット名を含む)。
LCMXREJ2	データセット名で使用するボリュームのイジェクトレポート用 LCM
LCMXREN1	LSM に含まれていないプルリスト上にあるボリュームのレポート用 LCM パラメータファイル
LCMXRERV	エラントボリュームのレポート作成用文
LCMXRMT1	複数の方式を使用するサマリーレポート用 LCM パラメータファイル
LCMXRMVC	MVC レポート用 LCM パラメータファイル
LCMXRSM1	LSM サマリーレポート用 LCM パラメータファイル

メンバー名	説明
LCMXRSR1	非 LSM スクラッチリストレポート用 LCM パラメータファイル
LCMXRVR1	HSC および TMS 情報を含むすべてのボリュームのレポート用 LCM パラメータファイル
LCMXSYNC	スクラッチ同期用 LCM パラメータファイル
LCMXTAC1	LCMXRAC1 のレポートテンプレートのサンプルソース
LCMXTAL1	LCMXRAL1 のレポートテンプレートのサンプルソース
LCMXTEJM	LCMXREJM のレポートテンプレートのサンプルソース
LCMXTEJ1	LCMXREJ1 のレポートテンプレートのサンプルソース
LCMXTEJ2	LCMXREJ2 のレポートテンプレートのサンプルソース
LCMXTEN1	LCMXREN1 のレポートテンプレートのサンプルソース
LCMXTERV	LCMXRERV のレポートテンプレートのサンプルソース
LCMXTINV	LCMXRINV のレポートテンプレートのサンプルソース
LCMXTMT1	LCMXRMT1 のレポートテンプレートのサンプルソース
LCMXTMUL	組み込み REPORT MULTIPLE テンプレートのサンプルソース
LCMXTMVC	LCMXRMVC のレポートテンプレートのサンプルソース
LCMXTPHY	組み込み REPORT PHYSICAL テンプレートのサンプルソース
LCMXTSM1	LCMXRSM1 のレポートテンプレートのサンプルソース
LCMXTSR1	LCMXRSR1 のレポートテンプレートのサンプルソース
LCMXTVIR	組み込み REPORT VIRTUAL テンプレートのサンプルソース
LCMXTVR1	LCMXRVR1 のレポートテンプレートのサンプルソース

MVS/CSC のサンプルおよびマクロ

このセクションでは、ELS インストールテープ/CD-ROM に含まれている MVS/CSC のサンプルおよびマクロについて説明します。

MVS/CSC のサンプル

次の表では、MVS/CSC のサンプルメンバーについて説明します。

表A.5 MVS/CSC のサンプル

メンバー名	説明
APPCPMYY	APPC/MVS のシステムベース LU の定義のサンプル
CSCPARM0	VM ベースの (CLS) サーバーとの VTAM 通信接続の例を示す、MVS/CSC 起動パラメータファイルのサンプル
CSCPARM1	VM ベースの (CLS) 二重サーバーとの TCP/IP 通信接続の例を示す、MVS/CSC 起動パラメータファイルのサンプル
CSCPARM2	UNIX ベースの (ACSL) サーバーとの TCP/IP 通信接続の例を示す、MVS/CSC 起動パラメータファイルのサンプル
CSCPARM3	MVS ベースの (LibraryStation) サーバーとの TCP/IP 通信接続の例を示す、MVS/CSC 起動パラメータファイルのサンプル
CSCPARM4	MVS ベースの (LibraryStation) サーバーとの LU 6.2 通信接続の例を示す、MVS/CSC 起動パラメータファイルのサンプル
CSCPARM5	UNIX ベースの (ACSL) サーバーとの LU 6.2 通信接続の例を示す、MVS/CSC 起動パラメータファイルのサンプル
CSCPARM6	MVS ベースの (LibraryStation) サーバーとの XCF 通信接続の例を示す、MVS/CSC 起動パラメータファイルのサンプル
CSCPROC	起動 JCL のサンプル
DEFAPPC	APPC サイドの情報ファイルを作成する JCL のサンプル
IEAAPFY	MVS/CSC APF リストエントリのサンプル
IEFSSNYY	MVS/CSC サブシステム名テーブルエントリのサンプル
JCLCFGV1	起動パラメータおよび MVS システム定義のみを確認する、構成検証ユーティリティの JCL のサンプル
JCLCFGV2	起動パラメータ、MVS システム定義、およびサーバー構成の互換性を確認する、構成検証ユーティリティの JCL のサンプル

メンバー名	説明
JCLCONDB	スクラッチ変換ユーティリティの JCL のサンプル
JCLLOGR	イベントログレポートユーティリティの JCL のサンプル
JCLSCRUP	スクラッチ更新ユーティリティの JCL のサンプル
LU6APPL	VTAM のためのローカル LU の定義のサンプル
PGMISAM1	単一 MVS/CSC サブシステム環境で発行される QVOLUME 要求のサンプル
PGMISAM2	複数 MVS/CSC サブシステム環境で発行される QCSC および QVOLUME 要求のサンプル
PROGY	MVS/CSC APF リストエントリのサンプル
SCHEDYY	MVS/CSC の MVS プログラム属性テーブル (PPT) エントリのサンプル
TREQSAM1	TAPEREQ 制御文のサンプル
TREQSAM2	TAPEREQ 制御文のサンプル
UX05CSC1	動作不可のリターンコードを戻す MVS/CSC ユーザー出口 05 のサンプル

MVS/CSC のマクロ

次の表では、MVS/CSC のマクロメンバーについて説明します。

表A.6 MVS/CSC のマクロ

メンバー名	説明
SCSUX05P	MVS/CSC ユーザー出口 05 のパラメータリスト
SCSXREQ	プログラムインタフェース要求
SCSXREQM	プログラムインタフェースマッピングマクロ
SCUDRINF	TMS DB Read パラメータリスト

LibraryStation のサンプルおよびソースコードモジュール

このセクションでは、ELS インストールテープ/CD-ROM に含まれている LibraryStation のサンプルおよびソースコードモジュールについて説明します。

LibraryStation のサンプル

次の表では、LibraryStation のサンプルメンバーについて説明します。

表A.7 LibraryStation のサンプル

メンバー名	説明
SLGPROC	LibraryStation 起動 JCL のサンプル
SLGAPFXX	LibraryStation APF リストエントリのサンプル
SLGDBCR	LibraryStation PDF を定義する JCL のサンプル
SLGPRGXX	LibraryStation APF リストエントリのサンプル

LibraryStation のソースコードモジュール

次の表では、LibraryStation のソースコードモジュールメンバーについて説明します。

表A.8 LibraryStation のソースコードモジュール

メンバー名	説明
SLGDJCL	SLGDIAG インストール検証プログラム (IVP) を実行する JCL のサンプル
SLGDEXEC	SLGDIAG IVP を実行する REXX exec のサンプル

用語集

4410	Oracle StorageTek 標準ライブラリストレージモジュール (LSM)。
4480	Oracle StorageTek 製 18 トラック 1/2 インチカートリッジトランスポート。
4490	Oracle StorageTek 製 ESCON サポート付き 36 トラックロングテープカートリッジトランスポート。「Silverton」とも呼ばれます。
9310	Oracle StorageTek ライブラリストレージモジュール (LSM) で、標準 4410 LSM の高性能バージョン。「PowderHorn」とも呼ばれます。
9360	Oracle StorageTek ライブラリストレージモジュール (LSM)。「WolfCreek」とも呼ばれます。
9740	Oracle StorageTek ライブラリストレージモジュール (LSM)。「TimberWolf」とも呼ばれます。
アクセス方式	データをプロセッサストレージデバイスと入出力デバイス間で移動する技法。
オペレーティングシステム	システム全体でプログラムの実行を制御しているソフトウェア。
仮想ストレージ	プログラムでの必要に応じて、メインストレージ要求がセグメント (またはページ) 別に割り振られることにより、無制限または仮想上のストレージが存在するように見せるオペレーティングシステムの機能。
仮想ストレージマネージャ (VSM)	「 VSM 」を参照してください。
仮想通信アクセス法 (VTAM)	「 VTAM 」を参照してください。
仮想テープストレージサブシステム (VTSS)	「 VTSS 」を参照してください。
仮想テープ制御システム (VTCS)	「 VTCS 」を参照してください。
機能修正変更識別子 (FMID)	「 FMID 」を参照してください。
許可プログラム機能 (APF)	「 APF 」を参照してください。

システム横断結合機能 (XCF)	「 XCF 」を参照してください。
システムネットワークアーキテクチャー (SNA)	「 SNA 」を参照してください。
自動カートリッジシステムライブラリソフトウェア (ACSL)	「 ACSL 」を参照してください。
自動カートリッジシステム (ACS)	「 ACS 」を参照してください。
ジョブ制御言語 (JCL)	「 JCL 」を参照してください。
ストレージ管理コンポーネント (SMC)	「 SMC 」を参照してください。
テープ管理カタログ (TMC)	「 TMC 」を参照してください。
伝送制御プロトコル (TCP)	「 TCP 」を参照してください。
トランスポート	テープのスレッド化や配置、テープからの読み取り、テープへの書き込みに使用する電気機械デバイス。
プログラム一時修正 (PTF)	「 PTF 」を参照してください。
並行障害回復テスト (CDRT)	「 CDRT 」を参照してください。
ホストソフトウェアコンポーネント (HSC)	「 HSC 」を参照してください。
ボリューム	1つの単位として、マウントまたはマウント解除されるテープカートリッジ (データキャリア)。
ボリュームシリアル番号 (VOLSER)	「 VOLSER 」を参照してください。
ボリュームマスターファイル (VMF)	「 VMF 」を参照してください。
ライブラリコンテンツマネージャー (LCM)	「 LCM 」を参照してください。

ライブラリストレージモジュール (LSM)	「 LSM 」を参照してください。
リソースアクセス管理機能 (RACF)	「 RACF 」を参照してください。
ACS	Automated Cartridge System。カートリッジストレージと取得ライブラリサブシステムから成る完全な自動処理システムで、パススルーポートに接続される1つまたは複数のライブラリストレージモジュール (LSM) で構成されます。
ACSLs	自動カートリッジシステムライブラリソフトウェア。UNIX® ベースのライブラリ制御システムを実行する、Oracle StorageTek ライブラリ制御ソフトウェア。
APF	許可プログラム機能。使用するプログラムを識別および許可するために使用するインストールセキュリティ機能。
CDRT	並行障害回復テスト。テープストレージ環境における障害回復テストを効率化する、Oracle StorageTek ソフトウェア。
FMID	機能修正変更識別子。ソフトウェアインストールで使用する機能システム修正変更 (SYSMOD) を表すために使用されます。
HSC	ホストソフトウェアコンポーネント。ACS の機能を制御するライブラリ制御システムプロセッサ上で動作する、Oracle StorageTek ソフトウェア。
JCL	オペレーティングシステムに対してジョブの処理要求を記述するために開発された問題解決型の言語。
JES2	システムへのジョブの受信、内部フォーマットへの変換、実行対象のジョブの選択、出力処理、システムからのパージを行う MVS サブシステム。複数のプロセッサが装備されている場合、各 JES2 プロセッサは自身のジョブ入力を個々に制御/スケジューリング/出力処理します。
JES3	システムへのジョブの受信、内部フォーマットへの変換、実行対象のジョブの選択、出力処理、システムからのパージを行う MVS サブシステム。緩やかに結合されている処理ユニットから成るコンプレックスの場合、グローバルプロセッサがローカルプロセッサを集中管理し、共通のジョブキューを使用してジョブを分配するよう、JES3 プログラムがこれらのプロセッサを管理します。
LCM	ライブラリコンテンツマネージャー。Nearline リソースと VSM リソースを管理する、Oracle StorageTek MVS ホストソフトウェア。LCM にはグラフィカルユーザーインターフェースである LCM エ

	クスプローラも含まれているため、パラメータファイルではなく構成ファイルを作成して LCM を構成できます。
LibraryStation	MVS ホストとクライアントシステムによる ACS 機能の共有を可能にする、Oracle StorageTek ソフトウェア。
LSM	ライブラリストレージモジュール。カートリッジ格納スペースを備えたライブラリストレージ構造で、ストレージセルと付属トランスポートの間でカートリッジを移動するビジョンシステム付きの自立型ロボットアームが備わっています。
PTF	プログラム一時修正。1 つまたは一連の不具合を修正するためにリリースされるソフトウェア。
RACF	リソースアクセス管理機能。データセットへのアクセスを制御するセキュリティソフトウェア。
SD-3	Oracle StorageTek 製ヘリカルカートリッジトランスポート。「RedWood」とも呼ばれます。
SL3000	Oracle StorageTek SL3000 モジュラーライブラリは、メディアの混在、論理および物理パーティション分割機能、高度な管理、および高可用性を提供します。メインフレームおよびオープンシステムを含む混在環境をサポートし、カートリッジスロットは 200 から 6,000 までとスケラブルです。
SL8500	Oracle StorageTek SL8500 モジュラーライブラリは、メディアの混在、論理および物理パーティション分割機能、高度な管理、高容量、および高可用性を提供します。メインフレームおよびオープンシステムを含む混在環境をサポートし、カートリッジスロットは標準の 1,450 から複雑な構成の 100,880 までとスケラブルです。
SMC	ストレージ管理コンポーネント。IBM の z/OS オペレーティングシステムと Oracle StorageTek の実際のテープハードウェアおよび仮想テープハードウェアとの Oracle StorageTek ソフトウェアインタフェース。SMC は ELS ソリューションのために割り振り処理、メッセージ処理、および SMS 処理を実行します。
SMP	システム修正変更プログラム。
SMP/E	拡張システム修正変更プログラム。
SMS	システム管理ストレージ。
SNA	システムネットワークアーキテクチャ。ネットワークの構成と運用を制御し、ネットワークを介して情報ユニットを送送するための論理構成、フォーマット、プロトコル、および運用シーケンスを記述したもの。

Sysplex	お客様の作業負荷を処理するため、特定のマルチシステムハードウェアコンポーネントとソフトウェアサービスを介して相互通信し、協働する一連の MVS システム。(I)
T10000A	120G バイトまたは 500G バイトの T10000A カートリッジの読み取りおよび書き込みが可能な、Oracle StorageTek 製の T10000 A 大容量カートリッジトランスポート。
T10000B	240G バイトまたは 1T バイトの T10000B カートリッジの読み取りおよび書き込みが可能な、Oracle StorageTek 製の T10000 B 大容量カートリッジトランスポート
T10000C	Oracle の StorageTek T10000 C 高速/大容量テープドライブで、最大 252M バイト/秒および 5T バイトをネイティブで実現し、データボリュームが増大し続けるデータセンターオペレーションに最適です。
T10000D	Oracle の StorageTek T10000D 高速/大容量テープドライブで、最大 252M バイト/秒および 8.5T バイトのネイティブ容量を実現し、データ保存要件が増大し続けるデータセンターオペレーションに最適です。
T9840A	9840A カートリッジの読み取りおよび書き込みが可能な、Oracle StorageTek 製のアクセス重視カートリッジトランスポート。
T9840B	T9840B カートリッジの読み取りおよび書き込みが可能な、Oracle StorageTek 製のアクセス重視カートリッジトランスポート。
T9840C	T9840C カートリッジの読み取りおよび書き込みが可能な、Oracle StorageTek 製のアクセス重視カートリッジトランスポート。
T9840D	T9840D カートリッジの読み取りおよび書き込みが可能な、Oracle StorageTek 製のアクセス重視カートリッジトランスポート。
T9940A	60G バイト T9940A カートリッジの読み取りおよび書き込みが可能な、Oracle StorageTek 製の容量中心カートリッジトランスポート。
T9940B	200G バイト T9940B カートリッジの読み取りおよび書き込みが可能な、Oracle StorageTek 製の容量中心カートリッジトランスポート。
TCP	伝送制御プロトコル。全二重ストリームサービスを提供するネットワーク間の標準プロトコル。
TCP/IP	Transmission Control Protocol/Internet Protocol。
TMC	テープ管理カタログ。テープライブラリのインベントリを記録するために CA-1 テープ管理システムによって使用されるデータセット。

VMF	ボリュームマスターファイル。テープライブラリのインベントリを記録するために CA-TLMS テープ管理システムによって使用されるデータセット。
VOLSER	ボリュームシリアル番号。物理ボリュームの ID。
VSM	仮想ストレージマネージャー。メディアやトランスポートの用途を向上させるため、VTSS バッファ内のボリュームやトランスポートを仮想化する Oracle StorageTek ストレージソリューション。ハードウェアには、DASD バッファである VTSS と RTD があります。ソフトウェアには、VTCS、HSC ベースのホストソフトウェア、および VTSS マイクロコードが含まれます
VTAM	仮想通信アクセス法。IBM ホストに常駐する、通信のための共通インタフェースとして機能する通信ソフトウェア。
VTCS	仮想テープ制御システム。VTSS、VTV、RTD、MVC に関する情報や動作を制御するプライマリホストコード。
VTSS	仮想テープストレージサブシステム。仮想ボリューム (VTV) と仮想ドライブ (VTD) を含む DASD バッファ。VTSS は、トランスポートのエミュレーションを可能にするマイクロコードを備えた STK RAID 6 ハードウェアデバイスです。この RAID デバイスは、「テープ」データのディスクからの読み取りとディスクへの書き込み、そのデータの RTD からの読み取りと RTD への書き込みを実行できます。
XCF	シスプレックス環境で実行される認証済みプログラム間の協働をサポートする機能を提供する、MVS のコンポーネント。(I)

索引

あ

イベントログデータセット、割り振り, 95
インストール準備タスク、ELS, 19
永続データファイル (PDF)、LibraryStation, 98
エージェント、LCM, 82

か

仮想ストレージの要件、ELS, 26
環境、SMP/E, 36, 37
許可プログラムリスト (APF), 93
HSC ユーザー出口ライブラリの追加, 63
考慮事項、インストール準備作業, 27
互換性、ソフトウェア, 24

さ

サブシステム名テーブル
MSTR のもとでの SMC の実行, 60
SMC、TMS、および Unicenter CA-MIA, 59
TMS との相互作用, 58
Unicenter CA-MIA, 59
修正についての注意, 60
サンプル
ELS, 103
LCM, 110
LibraryStation, 116
MVS/CSC, 114
システム管理機能 (SMF) パラメータ、追加, 66
修正サービス
HELD PTF の分離, 53
SMP/E ACCEPT, 52
SMP/E APPLY, 52
SMP/E RECEIVE, 52
インストールデータセット, 50
サンプルのアンロード, 50
メディア, 50
スターテッドタスクのパラメータ、LCM Agent, 82
ソースコードモジュール
ELS, 104
LibraryStation, 116
ソフトウェア要件、ELS, 22

た

ターゲットライブラリデータセット、割り振り, 38
チェックリスト、インストール, 29
テープ管理システム (TMS)、定義, 57
トレースデータセット、割り振り, 95

な

内容
インストール CD-ROM, 22
インストール Zip ファイル, 20
インストールテープ, 20
修正サービス, 50

は

ハードウェア要件、ELS, 25
プログラム属性テーブル
HSC のための修正, 65
プログラム属性テーブル (PPT)
MVS/CSC のための修正, 95
SMC のための修正, 61
保守
HELD PTF の分離, 53
SMP/E ACCEPT, 52
SMP/E APPLY, 52
SMP/E RECEIVE, 52
インストールデータセット, 50
サンプルのアンロード, 50
メディア, 50

ま

マクロ
ELS, 105
MVS/CSC, 115

や

ユーザー出口ライブラリ
MVS/CSC, 93

ら

ロードライブラリ
LibraryStation の許可, 96
ロードライブラリの許可
ELS, 55
LCM, 79

LibraryStation, 96
MVS/CSC, 91
SMC JES3, 68

わ

割り振り

MVS/CSC のイベントログおよびトレースの
データセット, 95

A

APF (許可プログラムリスト)

MVS/CSC ユーザー出口ライブラリ, 93

C

CHGIT、編集およびテスト, 35

Consolidated Software Inventory (CSI), 37

E

ELS

FMID, 42

SMP/E 環境, 36

インストール CD-ROM の内容, 22

インストール Zip ファイルの内容, 20

インストールテープの内容, 20

仮想ストレージの要件, 26

サンプル, 103

ソースコードモジュール, 104

ソフトウェア要件, 22

ターゲットおよび配布ライブラリデータセッ
ト, 38

ハードウェア要件, 25

マクロ, 105

ロードライブラリの許可, 55

F

FMID、ELS, 42

H

HELD PTF の分離, 53

HSC

MVS サブシステムとしての定義, 62

MVS プログラム属性テーブル (PPT) の修正,
65

SMF パラメータの追加, 66

HSC ユーザー出口ライブラリ、許可

ロードライブラリの許可

HSC ユーザー出口ライブラリ, 63

I

IATHCM Type 1 の修正, 70

IATIIP1 Type 1 の修正, 70

IATMDAL Type 1 の修正, 71

IATMDFE Type 1 の修正, 71

IATUX09 ユーザー出口の修正, 73

IATUX71 ユーザー出口の修正, 75

J

JCL

SMP/E JCL ライブラリのアンロード, 33

保守のインストール, 50

JES3

IATUX09 ユーザー出口の修正, 73

IATUX71 ユーザー出口の修正, 75

SMC Type 1 の修正の作成およびインストー
ル, 70

SMC のための SMCERSLV モジュールのアセ
ンブル, 67

ロードライブラリの許可, 68

L

LCM

EDI からの HSC CDS の除外, 81

LCM Explorer, 87

インストールの検証, 81

エージェント

インストールと構成, 82

スターテッドタスクのパラメータ, 86

サンプル, 110

ロードライブラリの許可, 79

LibraryStation

永続データファイル (PDF) の定義, 98

サンプル, 116

ソースコードモジュール, 116

ロードライブラリの許可, 96

M

MVS/CSC

MVS サブシステムとしての定義, 88

MVS プログラム属性テーブル (PPT) の修正,
95

イベントログおよびトレースのデータセットの割り振り, 95
マクロ, 115
ユーザー出口ライブラリの許可, 93
ロードライブラリの許可, 91
MVS/CSC のサンプル, 114
MVS/CSC ユーザー出口ライブラリ, 93
MVS LINKLIST
SCSBPREI モジュール, 94
SMCBPREI モジュールの移動, 58
SMCBPREI モジュールのコピー, 58

P

PDF (永続データファイル)、LibraryStation, 98
PPT (プログラム属性テーブル)
HSC のための修正, 65
MVS/CSC のための修正, 95
SMC のための修正, 61

S

SCSBPREI モジュール、MVS LINKLIST へのコピーまたは移動, 94
SLSBPRIEI モジュール、MVS LINKLIST へのコピーまたは移動
MVS LINKLIST、SLSBPRIEI のコピーまたは移動, 65
SLUDR* ルーチン、HSC のための再アセンブル, 67
SMC
MVS サブシステムとしての定義, 57
MVS プログラム属性テーブルの修正, 61
SMCBPREI モジュール、MVS LINKLIST へのコピーまたは移動, 58
SMCERSLV モジュール、アセンブル, 67
SMCERSLV モジュールのアセンブル, 67
SMF (システム管理機能) パラメータ、追加, 66
SMP/E
ACCEPT ELS 機能, 47
APPLY ELS 機能, 46
JCL ライブラリ、アンロード, 31
RECEIVE ELS 機能, 42
環境の準備, 36

V

VTCS

